

# 令和3年度 活動実績報告書



長岡崇徳大学

## 目 次

1) 教務委員会	1
2) 入試委員会	3
3) 学生委員会	8
4) 広報委員会	13
5) 学術委員会	15
6) FD委員会	16
7) 研究倫理委員会	17
8) 地域連携・貢献委員会	20
9) 大学連携委員会	22
10) 国際交流委員会	25
11) 実習委員会	27
12) 国家試験対策委員会	32
13) 図書館運営委員会	33
14) アドバイザーⅠ期生	36
15) アドバイザーⅡ期生	37
16) アドバイザーⅢ期生	38
17) アドバイザーⅣ期生(※)	38
18) 子育て支援事業	39
19) 高大連携ワーキンググループ	41
20) リカレント教育ワーキンググループ(※)	41
21) 教育DX推進会議(※)	42
22) 認知症認定看護師養成機関設立準備委員会(※)	42
23) 自己点検・評価委員会	43

(※)については新設のため、令和4年度目標及び計画を記載



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
教務委員会		⑥その他「新たな事項」に対し、適宜対応する。	⑥ その他 現状にあわせて「単位の授与及び試験に関する規定」、「休学・復学・退学・再入学等に関する規程」等の改正を行った。	A	規程	⑥ その他 現状にあわせて規程の改正等を行うことができたため評価を「A」とした。次年度も今年度と同様に「新たな事項」に対し、適宜対応していく。			
	2 履修指導を行う。	2 履修指導を行い、学生がスムーズに履修登録および履修計画が立てられるようにする。	1年生に対し、前期の初め(履修登録前)に履修ガイドに沿って履修指導を行った。	A	履修ガイド	2.履修指導 1年次の履修登録前に履修指導を行うことができたため評価を「A」とした。次年度は1年次に限らず、履修についてはオリエンテーションで確認し、計画的に履修できるようにしていく。	2 履修指導を行う。	2 履修指導を行い、学生がスムーズに履修登録および履修計画が立てられるようにする。	
	3 入学前教育を実施する。	3 2022年度入学生に対し、入学前教育を実施する。	入学前教育の対象者で、申し込みだけして実施していなかった学生2名に対して講座の受講を促した。2021年12月末前に入学が決まった生徒に対し、入学前教育を実施した。ガイダンス、前後の確認テストを含めたコースで業者に依頼した	B	入学前教育案内文	3.入学前教育 対象生徒への説明等に関して、業者との連絡調整が必要な状況があったため評価を「B」とした。次年度は業者の変更も含めて、入学前教育の内容を検討していく。	3 入学前教育の内容を再検討し、実施する。	3 入学前教育の教材等について再検討し、2023年度入学生に対し、入学前教育を実施する。	
	4 卒業研究のゼミの振り分けを行う。	4 2月下旬までに卒業研究のゼミの振り分けを行い、卒業研究がスムーズにスタートできるよう準備する。	4.看護課題研究 看護課題研究のファイル(学生用・教員用)を配布した。スケジュールに沿ってゼミの希望調査を実施し、2月下旬にゼミを決定した。学生が記載したテーマと内容を確認し、第3希望までに入っていない領域に2名の学生を本人の了解を得て配置した。	B	看護課題研究ファイル 2022年度ゼミ学生一覧	4.看護課題研究 オリエンテーションの際、領域ごとの「教員が指導可能なテーマ一覧」を配布したため、希望調査では自分自身の看護課題ではなく一覧の内容から記載した学生も多かった。調査期間を3週間ほどとったが、図書館等で文献を調べる様子がほとんど見られず、オリエンテーションの仕方が次年度の課題である。また、次年度は看護課題研究のフィールド調整、論文提出、発表会がスムーズに実施できるよう計画的に進めていく必要がある。	4 看護課題研究を実施する	4 看護課題研究が円滑に実施されるようにする ① 6月上旬に研究フィールドを調整する。 ② 11月中旬の研究発表会を運営する ③ 2月下旬までに卒業研究のゼミの振り分けを行う。	
	5 特別講座を行う。	5 特別講座を行う。	1月に特別講座(テーマ:リラクゼーション法、講師:母性看護学 佐藤先生)を実施した。参加者は2年生10名であった。	B	案内チラシ 参加者アンケート結果	5.特別講座 コロナ禍で対面での開催は難しい状況であるが、基礎看護学実習前の2年生にリラクゼーション法についての講座はタイムリーであった。天候も悪く当日の参加者が少なかったこと、今年度は1回のみ開催であったことから評価を「B」とした。次年度は感染状況も見ながら2回程度の開催をめざす。	5 特別講座を行う。	5 特別講座を行う。	



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
入試委員会		<p>2)長岡技大と連携し、大学入学共通テストに必要な要因を確保し、派遣する。</p> <p>3)外部の試験問題出題者・問題の確認者の確保と依頼</p>	<p>・1月15日は2人の教員が、1月16日は3人の教員が試験監督者として、また、両日とも3人の事務職員が入試担当者として長岡技術科学大学試験場で試験実施係等として業務を滞りなく行った。</p> <p>・一般選抜試験Ⅰ期、Ⅱ期で出題する4教科について出題者に依頼、その後問題点検については入試委員を中心に2名ずつで分担して点検項目にそった点検作業を行った。点検では、①誤字・脱字の確認、②問題番号と解答番号の整合性確認、③出題文の統一性などについて確認した。気づいたことを出題者に意見を述べたが、内容に踏み込んだ指摘については修正されなかった。点検にあたった入試委員の点検作業の受けとめに相違があったこともあり、今後はこの点検作業の基準作りを行い、適正で負担感のない点検作業としていきたい。</p> <p>・問題印刷については、入試・広報課と入試委員の代表者で行い、点検、封印して試験に備えた。英語Ⅰ期の問題中の出典の誤りを作問者から試験開始直前に指摘された。解答にあたり、問題は生じないと本部で判断し、試験が終了後、英語を選択した受験生には修正したページのみ渡して対処した。受験生の高校や父兄からの問い合わせはなかった。このような問題が生じた原因について、担当者と検討し、問題用紙を大きく修正した場合は最終確認を作問者に郵送等で行い、問題が生じないように対応していくこととした。</p>	A	長岡技大実施要領				
	2 2021年度の入試事業(2022年度入学生対応)が公明・正大に遂行できる	1)2021年度の募集要項に示された内容をO、C等で告知する	<p>・必要十分に告知できた。</p> <p>・8、9、10、12月のOCにおいて、スライド資料を用いて学生募集要項に示された入試の説明を行った。アンケート結果では、各回とも参加者の80%以上が「よくわかった」と回答した。</p> <p>・文科省通知「令和4年度大学入学者選抜要項」前に作成した学生募集要項中、合格発表日が通知より早めていたものについて、学生募集要項に訂正文を挿入して配布し徹底を図った。</p>	A	オープンキャンパス資料募集要項	目標2について:ホームページの工夫や高校への周知活動、OCでの告知などできる限りの活動を実施し、2021年度の入試事業(2022年度入学生対応)が公明・正大に遂行できた。今後も丁寧に実施していきたい。	2 2022年度の入試事業(2023年度入学生対応)が公明・正大に遂行できる	1)2022年度の募集要項に示された内容をOC等で告知する 2)募集要項で示された内容を遵守して試験と選考を行う	
		2)募集要項で示された内容を遵守して試験と選考を行う	<p>・適切に試験と選考を実施した。</p> <p>・選抜区分ごとのデータを「選抜状況」として一覧表にまとめ、拡大入試委員会や可否判定会議の資料とした。</p>	A	第3回入試委員会議事録実施要領				



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
入試委員会		5) 調書、評定、欠席、活動や資格等の取扱い  6) 合格、不合格ラインの考え方と設定  7) 特待生の基準について	・調書の評価については、検討は開始したが、検討途中となっており今後検討を続けていく。  ・現状の課題として、看護系大学においては、将来看護職としての資質や入学後学習がスムーズにできるかといった面から、面接試験を多く実施している。看護系大学として、面接試験ははずせない要件である。しかし、面接官が経験や選考基準を駆使して低く面接点をつけた場合でも、総合点で選考という本学の可否判定基準から大きな懸念を残したまま入学を許可することとなる。また、前もって学生募集要項にも記載がない。 入試委員会では面接評価をA・B・Cや良・可・否といった合格のラインに補助的に利用してはどうかという意見もあったが、総合型や学校推薦型入試では面接評価のみしか行っていないため、簡単に結論づけられないという結果となった。また、募集要項には判定基準が記載されていなかったことから、来年度の募集要項の記載は、「提出書類も参考に総合判定する」とし、更に検討を続けることとした。  ・現状課題として、本学は一般選抜試験Ⅰ期の上位1位を特待生Sとし、2位～5位を特待生Aとしている。しかし、面接点を含んだ総合点での判定のため、中には面接点が良く上位5位に入る学生もいる。入学後、特待生の継続に必要な「通算GPAが3.0」という基準に達せず特待生をはずれるかどうかという判断を余儀なくされる場合も見られることから、教授会等でも現在の特待生の決め方について、筆記試験のみで選考すべきではないかなどの意見も寄せられている。また、本学での特待生制度には優秀な学生確保という重要な課題があるが、特待生と伝えても入学を辞退する学生も多くおり、令和2年度、3年度選抜で特待生として入学した学生は10人中2名にとどまっている。入試委員会でも意見交換したが、選考方法に大きな問題はないとの意見で、当面は現行の選考を続けることとした。	B  B  B	第2回入試委員会資料 拡大入試委員会資料  第2回入試委員会議事録 第12回入試委員会資料 拡大入試委員会資料  第12回入試委員会資料	調書を評価に入れ込んでいくことについては、議論のあるところである。現時点では委員会において担当を決め、検討をはじめたところである。令和4年度は一定程度結論をだしていく。			



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
入試委員会	4.(追加)入学者選抜試験内容を振り返り、次年度の学生募集計画を年度内に立案する	1) 志願状況や入試結果の分析  2) 入試に関する研修会への積極的な参加により、入試への知見を深める	<p>・志願状況や入試結果は選抜区分ごとに表にして分析した結果、総合型選抜は志願者増を見越して募集人員を5人増やして20人としたが、志願者は17人と昨年より1名の減となり、学校推薦型選抜も募集人員35人に対し志願者29人と定員を下回った。昨年県内の多くの看護系大学一般選抜で定員に達せず追加合格を出したことから、年内に行われる入試の募集の強化が行われたことが志願者増とならなかった理由と史料する。</p> <p>なお、この選抜では高校の成績の条件もなく、学力検査もしていないことから入学後の成績を追跡し、結果によっては入試方法の変更(例えば小論文も課す等)も検討する必要がある。</p> <p>指定校推薦の推薦枠は84名もあるが、志願者は24名(昨年比3名増)と少ない。推薦枠も見直しが必要であるが、入学定員を割っている現状では難しい。当面は総合型選抜や公募推薦の志願者が多い高校の指定枠を増やす等小規模な変更を続けることが現実的な選択ではないか。3-1)でも述べているように本学では推薦型選抜の学生が相対的にGPAが高い傾向にあるという分析からも妥当だと考えられる。</p> <p>一般選抜区分の受験者は52人昨年比10人減、大学入学共通テスト利用選抜64人昨年比9人増と一般選抜から大学入学共通テスト利用選抜への移動が見られた。両選抜での志願者を増やすことが今後の課題である。</p> <p>本学は入学定員に比べ試験回数が多く、教職員の負担も大きい。ため志願状況を見ながら試験回数を減らす(例えば総合型Ⅱ期の廃止)ことも考えたい。</p>	B		<p>目標4について: 志願状況や入試結果は選抜区分ごとに表にして分析した結果、総合型選抜は志願者増を見越して募集人員増5人とし、学校推薦型選抜も募集人数を増やしたが、定員を下回った。理由として考えられることは昨年県内の多くの看護系大学一般選抜で定員に達せず追加合格を出したことから、年内に行われる入試の募集の強化が行われたことが志願者増とならなかった理由と史料する。</p> <p>また、指定校推薦の推薦枠84名に比して志願者が約3割である。課題として、総合型選抜では高校の成績の条件もなく、学力検査もしていないことから入学後の成績を追跡し、結果によっては学力を判断できる入試方法の変更(例えば小論文も課す等)も検討する必要がある。本学は入学定員に比べ試験回数も多く、教職員の負担も大きいので、志願状況を見ながら試験回数を減らす(例えば総合型Ⅱ期の廃止)ことも検討していきたい。</p>			
			<p>・計画にはあげていなかったが、入試に関する委員の資質向上のために、研修会(全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第16回)、大学入試センター・アドミッションコンピテンシー研修、新潟県大学ガイダンスセミナー)に参加し、委員会で伝達講習した。</p>	A					



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	2. キャリア支援について 1) 学生のニーズに沿ったキャリア支援体制を整え、支援する。	2. キャリア支援について 1)-1 キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・公務員試験対策(3月、4月)  ・インターンシップガイダンス(6月)  ・就職合同説明会(7月、8月)  ・実習マナー講座(1月)  ・就職・進学調査(8月、2月)	・公務員試験対策:2・3年生を対象とし、院内の講師で4月20日に実施し、38名の参加があった。  ・インターンシップガイダンス、就職合同説明会:コロナ感染症蔓延の関係もあり実施しなかった。  ・実習マナー講座:2年生を対象とし、2022年1月14日に外部講師によりWEBで実施し、29名の参加があった。  ・就職・進学調査:3年生を対象として、6月と3月に調査を実施し、結果はアドバイザーへ報告を行った。  ・就活セミナー:3年生を対象として、6月28日、2月21日、3月16日に外部講師によりWEBで実施し、6月は13名、2月は32名、3月は21名の参加があった。	B	・進路調査結果	1)-1 キャリア支援 就活セミナーを2回実施したことで、WEBでの病院見学、インターンシップ、資料請求などの動機づけになったが、計画していた一部の事業が実施できなかったため、評価は「B」とした。今年度、インターンシップガイダンス、就職合同説明会などが実施できていなかったため、来年度再考する必要がある。	2. キャリア支援について 1) キャリア支援担当職員と連携し、学生への就職・進学に関する情報提供およびその支援を充実させる。 2) キャリア支援室の整備を行い、個別面談ができる体制を作る。	2. キャリア支援について 1)-1 キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・公務員試験対策(3月、4月) ・インターンシップガイダンス(6月) ・就職合同説明会(7月、8月) ・実習マナー講座(1月) ・小論文の書き方・エントリーシートの書き方講座など。 1)-2 就職・進学調査(3年次の8月、2月)を実施し、アドバイザーへ情報提供する。 1)-3 学生に対する広報活動を強化(ポータルサイトの活用、掲示板、対面での紹介活動)する。 2)-1 キャリア支援室を整備し、面談室を作り、学生の個別相談に応じることができるようにする。個別相談記録の作成を行う。 2)-2 1期生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料の作成を行う。	
	2) キャリア支援室の整備を行い、学生の利用促進を図る。	2)-1 キャリア支援室の移動整備(4月～5月)および整備を行う。  2)-2 学生に対する広報活動を強化する(ポータルサイトの活用、掲示板、直接PR)。	2)-1 キャリア支援室 ・4月にキャリア支援室を5階フロアから4階図書館脇に移動を行い、パンフレットラック、ホワイトボードを設置し、環境の整備を行った。  2)-2 広報活動 ・学生に対してパンフレット、ガイダンスの案内、病院の案内が目に見えるよう配置を行った。ガイダンス実施時は、案内表示、ポータルサイトの活用を行った。	B  A		2)-1 キャリア支援室 キャリア支援室の整備に関して、5階フロアから4階図書館脇に移動したことにより、パンフレットなどは整備されたが、学生の利用に関しては、3年次ということもあり、十分とは言えない。そのため、評価は「B」とした。今後は、学生相談室・検索用のパソコンの設置、相談担当者の配置などを整備・充足していく必要がある。  2)-2 広報活動 学生に対するPR活動では、掲示、口頭、ポータルサイトを活用することにより、計画したガイダンスの参加者が多かったため、評価は「A」とした。今後も学生の目に留まるように、学生自身がスケジュール管理をできるように早めの計画と提示をしていく必要がある。			
	3. 継灯式について 1) 参加者の安全を考慮し、継灯式を行うことができ	3. 継灯式について 1)-1 5月22日(土)に継灯式を行う。  1)-2 学生全員が協力し合い、主体性をもてるよう支援する。  1)-3 課題を明確にし、次年度につなげる。	5月22日に継灯式が挙行された。新型コロナウイルス感染拡大のため参加者の人数を制限し、学生と御祝辞をいただく来賓2名と教員と職員とで行った。 練習の日程は、4回程度確保していたが、コロナの関係で授業時間の変更があり、1回だけになった。歌手とのリハーサルでは2名が欠席、継灯式当日は1名の欠席があった。歌手と一緒のリハーサルでは、気持ちも高まり良かった。備品は専門学校のを譲り受け、不足分を購入し、特に問題はなかった。終了後アンケートを行い、全体の92.2%が「満足、やや満足」と回答していた。	B	・学年暦 ・令和3年度 長岡崇徳大学継灯式 式次第 ・令和3年 継灯式スケジュール ・令和3年度 長岡崇徳大学継灯式アンケート	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて2年次の計画を3年次5月に延期することになり、さらに十分な練習時間が確保できなかったが、学生全員が協力し合い主体性をもって行動できた。式の後のアンケートでは、全体の92.2%が「満足、やや満足」と回答していた。しかし、7.9%は「どちらともいえない」であった。内容は、「行っただけと実感がない。」「拘束時間が長いのは、練習が必要なので仕方ないが、当日のスケジュールとかの連絡が遅かった。」「継灯式がどういう式なのかよくわからず、どういう気持ちで参加すべきかはっきりしないと感じた。」であった。コロナの影響で実施が延期となったことや係の学生とそうでない学生の温度差があった。また、今回、楽曲、誓いの言葉、親火からの継灯を学生に考えてもらい実施した。以上のことより、評価は「B」とした。大学行事でもあることから、今後、役割を明確にする必要がある。	3. 継灯式について 1) 参加者の安全を考慮し、継灯式を行うことができる。	3. 継灯式について 1)-1 5月21日(土)に継灯式を行う(2期生)。 1)-2 学生全員が協力し合い、主体性をもてるよう支援する。 1)-3 課題を明確にし、次年度につなげていく。	

看護学部・看護学科の目標								
令和3年度				令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	4. 学友会について  1) 学友会活動を支援する。	4. 学友会について  1)-1 徳樹祭、サークル活動などの学友会活動を側面からバックアップする。	1) 学友会活動 ・4月30日に予定していた学生総会・新入生歓迎イベントは3分の2以上の出席を満せず延期となり、6月18日5限に学生総会・新入生歓迎イベントを実施した。学友会規約および学友会学生団体規約の改正をした。さらに、12月10日臨時学生総会で学友会役員の任期の改正を行った。 ・コロナの関係で予定していた徳樹祭は中止となった。 ・サークルについては、1サークルの新設、6サークルの継続を承認した。 ・大学の閉校時間について、学友会で学生が独自にアンケート調査を実施した。その結果、学校の閉校時間を延長して欲しいと要望あり、希望の多かった閉校時間を21時とする学生の要望を大学運営会議に付議した。 ・11月に学友会役員選挙を実施した。 ・12月10日に球技大会を開催した。	B	・(最新版)学友会規約 ・徳樹祭ポスター・タイムテーブル  ・サークル一覧  ・閉校時間に関するアンケート結果  ・2021年度学友会役員名簿 ・令和3年長岡崇徳大学球技大会要項	コロナ禍において、先の見通しが立たず、中止や延期となった行事があった。しかし、そのような中でも、学友会活動に対し、学生が主体的に行動できるように側面から支援していった。学友会活動では、学生が主体的に活動する場面も多々見られたため、評価は「B」とした。今後は学友会選挙、総会等の運営・議事進行および徳樹祭、新入生歓迎会などの企画・運営について、事前に打ち合わせを行い、学生が主体的にかつ適切に活動できるように支援を継続していく。	4. 学友会について 1) 学友会活動を支援する。	4. 学友会について 1)-1 徳樹祭、サークル活動などの学友会活動を側面から支援する。
	5. 保護者会について  1) 保護者会を円滑に行う(アンケートの満足度90%を目指す)。	5. 保護者会について  1)-1 10月9日(土)に保護者会を実施する。	1)-1 保護者会の実施(10月9日(土)) 昨年度の課題をもとに学年別説明会を入れ込んだ役割やスケジュールを作成し、10月9日(土)に保護者会を行った。出席数は52名(1年生18名,2年生21名,3年生13名)であった。個別面談は17名(1年生5名,2年生6名,3年生6名)であった。保護者へのアンケートでは「満足した:62.5%」「やや満足した:31.3%」の合計は93.8%であった(N=48)。全体会の声が聞き取りにくいことがあった、資料がない説明はわかりにくかった等の意見があった。	B	・保護者会役割分担表 ・2021年度保護者会アンケート結果	新型コロナウイルス感染予防対策をして開催でき、保護者会アンケートの満足度が93.8%ではあったが、昨年度の満足度(97.6%)より低かったこと、アンケート結果で一部「(マスク着用やマイク位置等のため)聞き取りにくい」「(資料がない説明は)わかりにくかった」等の意見があったこと等から「評価はB」とした。今年度学年別説明会を取り入れたが、教職員からの感想は賛否両論であった。来年度は4学年が揃うことから会場の確保や時間配分が難しくなることもあり、1・2年生と3・4年生に分ける等、説明内容に応じた工夫を考える必要がある。	5. 保護者会について 1) 保護者会を円滑に行う(昨年度より満足度を上げる)。	5. 保護者会について 1)-1 10月8日(土)に保護者会を実施する。
	6. 新入生イベントについて  1) 新入生同士の交流を図る。	6. 新入生イベントについて  1)-1 入学後早期に新入生イベントを実施する。	1)-1 新入生イベントの実施 2021年4月5日(月)13:00~16:00に、計画に基づき新入生イベントを実施した。内容は、崇徳厚生事業団に関する講話、自己紹介、GW「今の私たち。そして、未来に向けて」を行った。 学生委員会、アドバイザーの先生方の協力もあり無事に進行・終了できた。GWに関しても各グループで話し合いの過程や結果が発表された。	A	・新入生イベント実施計画書 ・令和3年度第16回教授会議事録	グループワークの内容から新入生同士の交流を図る目的は達成できたため、評価は「A」とした。崇徳厚生事業団に関する講話に関しては、法人の役割を知ってもらう意味では必要性はあるが、交流を促せるものではないため、別の企画としたほうが良いと思われる。	6. 令和5年度新入生イベントについて 1) 新入生同士の交流を図り、お互いを知ることにより学生生活をスタートできる。	6. 令和5年度新入生イベントについて 1)-1 入学後早期に新入生イベントを実施する。

看護学部・看護学科の目標								
令和3年度				令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	7. 学生生活(学生交流会・満足度調査)について 1) 学生生活の支援と大学生活の環境を整える。	7. 学生生活(学生交流会・満足度調査)について 1)-1 学生生活における改善課題に対して、大学側と学生との意見交換の場を設ける(話し合い、投書箱など)。 1)-2 改善課題に関して、進捗状況を学生に報告、対応する。	1)-2 進捗状況の報告 課題となっていた事項に関して、可能な限り学生の要望に応じるように、また、学生が納得できるように、2回、事務局長との話し合い・確認の場を設け、進捗状況をポータルサイト上に掲示した。 療育園との共同利用は入園者の状況や施設側の意向が強く、越後交通バスの運行の変更には事業所の費用の問題で難しいという回答であったが、保護者からの働きかけもあり、バスの夜間延長要請を行い、4月から「長岡崇徳大学東口」バス停が設置され、「長岡崇徳大学東口」19時10分発および19時40分発の運行が行われることとなった。また、12月にバス通りの十字路に信号機が設置され、学生の安全な生活環境が保証されることになった。学生の要望がかなわない事項は、施設や事業所の意向や財政上の問題から、さらなる展開が期待できないため、今後は投書での学生の声を受け止め、投書内容に応じて他部門と協力しながら回答していく。	B	・第1回学生交流会(2019年6月12日)での学生の意見・要望に対する回答	1. 学生交流会 学生の要望がかなわない課題について、事務局長との話し合いで強く要望し、対応を依頼した。その結果については、ポータルサイトを通して学生に公表した。ただ、施設や事業所の事情もあり、今後に向けて解決困難な課題が残ったため、評価は「B」とした。1期生が1年生の時に行った学生交流会において出てきた要望や意見について、何度となく大学側と話し合いをし、一定の成果が出たため、今年度で終了とする。今後は、学生生活満足度調査や投書などの内容をふまえて検討する。	7. 学生生活(満足度調査・他)について 1)-1 学生生活の現状および課題を明確にするとともに新たな課題に対応する。	7. 学生生活(満足度調査・他)について 1)-1 学生生活満足度調査を実施する。 ・昨年度までの学生生活満足度調査結果と調査項目を検討し、精選した調査票を作成する。 ・満足度調査を1回/年(9月予定)実施する。 ・集計・分析を効率的に行うため、WEBでのアンケート方法を導入する。 ・学生生活の現状および課題を明確にする。 1)-2 新たな課題に対し、適宜対応する。
		1)-3 学生生活満足度調査を実施し、結果の分析を行い、学生生活の充実に向けた改善の一助とする。	1)-3 学生生活満足度調査の実施 前年度と容易に比較ができるよう、2020年度作成の調査項目を使用し、全学年を対象に9月に学生生活満足度調査を実施した。回収率は全体で88.3%であった。「大学入学に関する満足度」「支援体制に関する満足度」「各施設・設備に関する満足度」「学生生活に関する実態」「学生自身に関すること」についてまとめ、教授会で報告した。	A	・令和3年度学生満足度・学生生活実態調査結果まとめ	2. 学生生活満足度調査 調査の実施により、学生の実態や満足度について把握することができたため、評価は「A」とした。調査結果の集計・分析に多くの時間を費やしているため、今後は、アンケートの実施方法、集計・分析方法について検討する必要がある。		
	8. 冬期交通安全講習会について 1) 冬期の交通を安全に行えるように支援する。	8. 冬期交通安全講習会について 1)-1 降雪前に冬季交通安全講習会を実施する。	1)-1 冬季交通安全講習会の実施 降雪前の11月17日(水)の5限に、主に雪道の通学が初めての1、2年生を対象にC201講義室で講習会を行った。長岡警察署交通課 安全教育係長の星野真美様をお招きし、「雪道での交通安全」についてご講演して頂いた。参加者は学生10名、教職員9名であった。サークル活動やアルバイトを理由に離席する学生が目立った。感想を発表した数名の学生の意見は、学んだことを実践して安全運転を遵守したいという意見が多かった。	B	・2021年度第8回学生委員会議事要旨(当日参加人数)	昨年度は警察署との日程が合わず開催を見送った講習会だったが、今年度は本格的な冬の到来の前に開催することができた。そのため評価は「B」とした。降雪前に冬季交通安全講習会を実施できたが、当日の参加人数が19名と少なかったことは改善の余地があると言える。また、実際に今年度は降雪後の交通事故が3件発生していることから、学生に参加の必要性を理解させるような案内方法の検討、学生と共に計画するような工夫などが求められる。	8. 冬期交通安全講習会について 1) 学生が冬期の通学を安全に行えるように支援する。	8. 冬期交通安全講習会について 1)-1 学生と共同し、降雪前に冬季交通安全講習会を実施する。 1)-2 昨年度より受講者数が増加するよう教務学生課と早めの日程調整をし、学生に積極的な参加を促す。 1)-3 交通安全の注意喚起を促すために、学生の目に留まるような内容と掲示場所を工夫してポスターを掲示する。
		1)-2 通学時の安全を守るための注意事項のポスター掲示、または注意喚起の文書を提示する。	1)-2 講習会案内ポスター 講習会に先立ち、講習会の案内ポスターを学内に掲示し、学生ポータルサイトにも掲載した。  1)-3 注意喚起ポスター 講習会に出席できなかった学生にも周知するため、警察署から頂いた交通安全に関する注意喚起ポスターを学内に掲示した。		・交通安全注意喚起ポスター  ・冬季交通安全講習会実施ポスター			

看護学部・看護学科の目標								
令和3年度						令和4年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。						1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。		
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。						2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。		
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。						3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。		
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	9. 投書について 1)-1 学生からの投書に対し、適宜対応する。	9. 投書について 1)-1 学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する。	1)-1 学生からの投書 学生からの投書は、4月21日1通、4月22日1通、6月7日1通、6月9日1通、6月15日1通、10月21日1通、2月22日1通の、計7通あった。投書は「学生意見箱」ではなく、全てポータルサイトからであり、全て「非公開」希望であった。投書は「非公開」希望であったため、学生に対しての回答はしなかったが、投書の内容によっては対応した。	A	・投書7通	今年度の投書は、全て「非公開」希望であったが、投書の内容によっては対応したため、評価は「A」とした。今後も適宜対応をしていきたい。	9. 投書について 1)-1 学生からの投書に対し、適宜対応する。	9. 投書について 1)-1 学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する。

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
広報委員会	1. ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた広報媒体(方法)・内容を検討し、効果的な広報活動を展開する。	1について ①OCの開催(年間9回)  ②次年度大学案内の業者選定と作成作業(8月業者決定、10月～写真撮影)  ③ホームページの管理運営(通年)  ④動画作成(3本)と公開(5月～)  ⑤DM、高校ラックチラシ、FAX、バス放送等による広告(適宜)  ⑥SNSの利用状況の確認と活用(適宜)	①OCの開催(年間9回) 新型コロナウイルスが拡大した時期もあったが、看護体験プログラムの変更や会場の分散など感染対策に留意しながら、実施することができた。参加者146名(高校生のみをカウントした延べ参加人数)、アンケートの結果から参加者の満足度は高かった。今年度より企画した座談会形式の在学生による入試体験談は、参加者から特に好評であった。  ②次年度大学案内の業者選定と作成作業(8月業者決定、10月～写真撮影) 大学案内の作成業者を変更し、デザインを刷新した。掲載する写真も新たに撮り直した分、授業等を考慮しながら写真撮影のスケジュールを調整することには難しさもあったが、予定通り4月の納入に向けて作業を進めることができた。  ③ホームページの管理運営(通年) 定期的なお知らせ情報の更新の他、各ページの写真をより相応しいものに差し替えた。新たに「証明書発行手続き」のページを追加し、図書館のページは文献検索の内容を強化するなどリニューアルを実施した。  ④動画作成(3本)と公開(5月～) 「在学生の1日に密着」「保護者に聞いてみた！長岡崇徳大学ってどんな大学？」「継灯式」の3本の新規動画を作成し公開した。「在学生の1日に密着」は年間で約900回を超える視聴があった。  ⑤DM、高校ラックチラシ、バス放送、JR電車内広告(適宜) これまでのDM、高校ラックチラシ、バス放送等による広告を継続するとともに、JR電車内広告、短期テレビCM、長岡駅のパネル設置を新規広告として実施した。テレビCMの動画はYouTubeにて半年間で4万回を超える視聴があった。  ⑥SNSの利用状況の確認と活用(適宜) 主にOC告知、OC終了後の情報発信、入試告知のため、Twitter及びLINEを活用した。エデュースからの助言を受け、TwitterではOC関連の投稿を11回、入試関連の投稿を7回、その他大学の様子を紹介する投稿を27回行った。中には表示回数5000回を超える投稿もあった。LINEは主にOC告知・入試告知ツールとして使用し、計17回投稿した。その他、LINEのチャット機能を使用した個別相談も行い、約100件の問い合わせに対応した。	A	・OCアンケート結果  ・大学案内  ・ホームページ  ・動画データ	ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた広報媒体(方法)・内容を検討しながら、電車内広告、駅内パネルの設置、テレビCM等の新規広告を取り入れ、広報活動を展開することができた。 学生募集の観点からは、中越地区および指定校・公募推薦選抜による出願者の増加という結果には至らなかったが、76名の入学者を確保することができた。様々な広告媒体を検討しながら、高校生・保護者・地域住民・社会の大学の認知度を高める広報活動は今後も重要であると考えられる。 また、高大連携事業や地域連携事業等の取り組みと協働し、大学で看護を学ぶことの魅力を積極的に発信し、特に中越地区からの出願者、および指定校・公募推薦選抜による出願者の増加に向けた広報活動を引き続き展開する必要がある。さらに、教育・研究機関としての大学の認知度を高めていくことも広報活動として重要である。特に、特長的な教育実践、教育研究活動や成果を学内外に積極的に発信することは今後の課題であると考えられる。	1. データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な広報活動を展開し、OC参加者を増やす。	1について ①OCの開催(年間7回) ②動画作成 4年生動画等(5月～) ③ホームページを活用した情報発信 在学生紹介ページ等の追加(通年) ④YouTube広告の積極的活用(6月頃) ⑤SNSの利用状況の確認と積極的活用(適宜) ⑥DM、高校ラックチラシ、FAX、テレビCM、バス放送等による広告(適宜) ⑦次年度大学案内作成作業(順次写真撮影、9月構成等の検討) ⑧エデュースのデータ分析結果とコンサルティング内容を活用した広報戦略の検討(毎月)	

看護学部・看護学科の目標								
令和3年度				令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
広報委員会	2. 大学で看護を学ぶことの魅力を積極的に発信し、特に中越地区からの出願者、および指定校・公募推薦選抜による出願者を増加させる。	⑦各種データ分析とエデュースとのWeb会議による広報戦略の検討(毎月)  2について ①高校訪問(5月～、年間3クール)  ②高校教員説明会(6月)  ③看護の学び体験の実施(7月～8月、3回)  ④高校出前授業(随時)  ⑤大学ガイダンス(通年随時)  ⑥指定校・公募推薦選抜入試の入学生から出身校への手紙(7月)	⑦各種データ分析とエデュースとのWeb会議による広報戦略の検討(毎月) エデュースと月1回のWeb会議を開催し、Web広告の成果報告を受けるとともにホームページアクセス数、動画視聴数、SNSの利用状況などのデータを踏まえて修正・改善点などを検討し、OCのDMの内容構成、在学生の入試体験談の企画などに反映させた。 また、高校生からの大学案内や募集要項請求データを分析してもらい前年度に比べて減少した地域や個別の高校については重点的に訪問することとした。更にOC開催案内や各入試が近づいた際に送るDMの原稿作成に協力いただいた。  ①高校訪問(5月～、年間3クール) 5月に県内87校、10月に44校、11月に41校の訪問し、学生募集活動を行った。また、山形県、長野県及び富山県の高 校19校を各1回訪問した。  ②高校教員説明会(6月) 高大連携事業の研修会と合わせた2部構成で実施した。従来の入試関連の教員説明会には6校6名の参加があった。  ③看護の学び体験の実施(7月～8月、3回) 新潟西高校、大手高校、県内高校公募の3回に分けて看護の学び体験を実施した。申し込みが多く、1高校あたりの申し込み者数を制限しなければならない状況であった。チーム医療に関するグループワーク、演習室を使った看護体験等を実施し、参加者の満足度は高かった。  ④高校出前授業(随時) 県内の高校、市内の小中学校から19件の派遣依頼があり(令和2年度 22件)、出前授業を実施した。  ⑤大学ガイダンス(通年随時) 新型コロナウイルス感染拡大の影響などでZOOM開催のものも含め、21回参加し、延べ136名の参加があった。  ⑥指定校・公募推薦選抜入試の入学生から出身校への手紙(7月) 学生の授業・試験等との兼ね合いから準備が整わず、実施には至らなかった。	B	・高校訪問実績表  ・高校教員説明会資料、アンケート結果  ・実施スケジュール ・参加者感想文  ・出前授業一覧表  ・ガイダンス出席一覧表、参加者アンケート		2. これまでの入学実績の分析に基づいた戦略的な高校訪問活動等を実施し、総合型選抜、学校推薦型選抜による出願者を増加させる。	2について ①入学者実績のレベルに応じた高校訪問(5月～、年間3クール) ②大学ガイダンス(通年随時) ③高校出前授業(随時) ④指定校・公募推薦選抜入試の入学生から出身校への手紙(7月)
	3. 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。	3について ①ホームページの管理運営(随時) 特に教育実践報告、研究活動の紹介、地域貢献・地域連携の活動報告を積極的に掲載する	①ホームページの管理運営(随時) 教育実践、地域貢献・地域連携の活動等については、実施の告知や終了後の報告など適宜情報を発信することができたが、教員の研究活動の紹介は準備が進まず実施には至らなかった。	B	・ホームページ		3. 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。	3について ①教育実践、研究活動、地域貢献・地域連携の活動等について、ホームページ等を通じて積極的に発信する



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学術委員会	1. 2022年3月に長岡崇徳大学紀要第2号を刊行し、前年度以上の本数の論文を掲載する。	1-①11月末を原稿締め切りとし、適宜原稿募集の呼びかけを行う(通年)  1-②査読における具体的な指針を明確にする(6月頃まで)  1-③査読者の選定と依頼を行い、査読結果の内容を参考に掲載可否を検討する(～1月)  1-④編集作業を行い、紀要第2号を刊行する(3月)	1. 紀要における査読指針を作成し、査読の基本方針、査読の留意点等について明確にした。紀要発行に向けて一連の作業(原稿募集、査読依頼・原稿修正依頼・採否の審議・編集等)を行い、電子媒体により「長岡崇徳大学紀要第2号」を刊行した。	B	長岡崇徳大学紀要における査読指針 長岡崇徳大学紀要第2号	紀要における査読指針を作成して査読システムを整備するとともに、「長岡崇徳大学紀要第2号」を刊行することができた。掲載論文は報告2編のみと少ないことから、次年度は原著論文から実践報告まで幅広く掲載できるように、研究活動の推進と合わせて取り組むことが課題とされる。 研究不正防止に関しては、組織体制や諸規定についての整備が進んだ。今後は教員だけでなく、事務職員、役員等を含めたコンプライアンス教育・啓発活動の実施計画を策定していくことが課題とされる。 研究活動については、学内の研究設備の整備を図るとともに、「新潟大学研究支援トータルパッケージ事業(RETOP)」との契約により研究サポート体制を整えた。今後はRETOPの活用をさらに推進し、科研費をはじめとする外部資金獲得を支援していくとともに、FD委員会、研究倫理委員会等と協働して研究活動を推進していく	1. 長岡崇徳大学紀要第3号を刊行し、前年度以上の本数の論文を掲載するとともに、機関リポジトリへの登録を行う。	1-①11月末を原稿締め切りとし、適宜原稿募集の呼びかけを行う(通年) 1-②査読者の選定と依頼を行い、査読結果の内容を参考に、修正原稿をもとに掲載可否を検討する(～2月) 1-③編集作業を行い、紀要第3号を刊行する(3月) 1-④機関リポジトリへの登録手続きを進め、年度内に登録を完了する(3月)	
	2. 研究における不正防止推進部署として、教職員のコンプライアンス教育の充実を図る。	2-①研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講を喚起し、受講修了を確認する(4月～)  2-②不正防止に関するガイドラインの改正等、最新の情報をタイムリーに伝達する(適宜)	2. 研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講を喚起し、年度内に教員全員が受講を完了した。学術委員会事務担当である財務課を中心に、不正防止に関する体制・諸規程等を整備した。	A	eラーニングコース(eI CoRE)の受講修了証 研究不正防止に関する規程		2. 研究における不正防止推進部署として各種規程等を作成するとともに、eラーニングによる教職員のコンプライアンス教育の体制を構築する。	2-①研究倫理eラーニングコース(eI CoRE)の受講を喚起し、受講修了を確認する(5月～9月) 2-②APRIN(構成研究推進協会)の契約手続きを進め、eラーニング教材の活用、研修セミナーの参加等に関して情報発信を行う 2-③不正防止に関するガイドライン、規程等を作成し、教職員のコンプライアンス教育の体制を構築する(通年)	
	3. 研究活動を推進するため、外部資金獲得の支援、研究環境の充実を図る。	3-①外部資金獲得等に関するセミナーの受講環境を整える(6月頃まで)  3-②外部資金獲得等に関する情報について配信する(適宜)  3-③分析ソフトSPSS、Nvivoの使用環境を整備する(5月)  3-④研究力の向上を支援する研修等の実施についてFD委員会と協議・検討する(3月まで)	3. 科研費を中心とした外部資金獲得の申請サポート、研究活動を推進するオンデマンドによるセミナー受講等を目的に、継続的な研究支援を受けられる「新潟大学研究支援トータルパッケージ事業(RETOP)」を契約した。RETOPの支援を活用しながら、本年度は科研費基盤研究Cに5件の申請があり(令和2年度は基盤研究Cに2件)、うち1件が採択された。また、研究環境の整備に関しては、分析ソフトSPSS、NvivoをインストールしたPCを準備し、ノートPCの貸し出しとデスクトップPCの助手室での利用を開始した。研究力向上の支援については、契約したRETOPの利用啓発を中心に行ったが、FD委員会との協議には至らなかった。	B	文書等 基盤研究C申請5件(内1件が採択)		3. RETOPの活用を通じた研究計画の立案や外部資金の獲得を支援するとともに、学内における研究環境を整備し、研究活動を推進する。	3-①RETOPの活用に関する情報を発信する(通年) 3-②科研費等の外部資金獲得の支援方法(RETOPによる申請書添削指導、セミナー等の活用)を発信する(通年) 3-③研究費公募に関する情報をタイムリーに発信する(通年) 3-④研究分析ソフト(SPSSとNvivo)の学内利用環境を整える	

看護学部・看護学科の目標								
令和3年度					令和4年度			
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。			
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。			
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。			
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
FD委員会 (シミュレーション)	1 より質の高い教育活動を推進し教育力の向上を図る。	1-1 シミュレーション教育研修会	1-1. シミュレーション教育講演会は、本学で作成した基礎看護学・小児看護学領域の資料をもとに実践的な内容が話された。(8/26実施) ①基礎看護技術演習Ⅱの「食事介助の技術」をタスクトレーニングで行うシナリオ②小児看護援助論Ⅱをシチュエーションベーストレーニングで行うシナリオを提示し、講師からのコメントを受けることにより、具体的なシナリオ作成について理解を深めることができた。アンケートでも「よかった」の回答が多く、各領域でシミュレーション教育を実施する道筋がつけられた。教員出席率100%であった。	A	講演会後のアンケート結果 2領域から出されたシナリオ FD委員会活動に関するアンケート結果	1-1阿部先生の2年に渡る講演によりそれぞれの領域がシミュレーション教育に取り組み、シミュレーション教育の推進が図れている。今後は各領域で行われているシミュレーション教育内容の共有と評価を行い、教育方法の改善につなげていくことが必要である。また演習や実習において実施したシミュレーション教育を実践報告や研究としてまとめたいことが課題である。	1 より質の高い教育活動を推進し教育力の向上を図る。	1-1 シミュレーション教育研修会 福岡女学院看護大学 藤野ユリ子先生
		1-2授業評価に関する研修会	1-2.授業評価に関する講演会は、新潟大学経営戦略本部教育戦略統括室 齋藤有吾准教授に依頼して行った。(12/23実施) 教育評価は教育活動を評価し改善するものであり、「授業評価」「学習評価」の2つのタイプがある。これらの位置づけと言葉の意味、意義が明確になり基本的な知識が得られた。学生の到達状況の評価する学習評価が重要であり、授業評価が教員評価にならないための工夫が必要であることが理解できた。教員出席率100%であった。	A	講演会後のアンケート結果 FD委員会活動に関するアンケート結果	1-2教育評価における「授業評価」と「学習評価」の位置づけや意味・意義について共通理解が理解できた。今後は演習・実習の評価方法を検討することが必要であるが、次年度は評価の具体的な方法について講演を依頼する。また現在実施している授業評価アンケート、ピアレビューについてどう評価に活用していくか検討する。	1-2授業評価に関する研修会 新潟大学 齋藤有吾先生	
		1-3 授業評価アンケートの実施	1-3. 前期・後期で授業評価アンケートを実施。講義については教務システムで入力、演習・実習については用紙に記入してアンケートを行った。後期では1年生の教務システムの入力回答が20～30%と少なかった。2年生も前期より教務システムの入力回答が少ない傾向にある。実習科目はほぼ全員が回答していた。	B	前期・後期授業評価アンケート結果	1-3 教務システムの授業評価アンケートの回答入力が少なかったため、教員が講義の最終回で学生が回答する時間を確保するよう徹底を図る。また自由記述についてどう書くかを書いてほしいかの説明が必要である。	1-3 授業評価アンケートの実施	
		1-4 授業のピアレビュー評価	1-4公開授業・見学実施要領に基づき、学内教員が担当する科目について授業見学・評価(ピアレビュー)を実施した。見学者が少なかった。	B	公開授業見学実施要領 見学申し込み用紙、予約表 ピアレビュー見学シート	1-4後期は領域別実習も開始されたことから、授業見学をする時間が取れなかった。公開授業の期間を延長し見学できる機会を多くする。	1-4 授業のピアレビュー評価	
		1-5授業改善に向けた授業評価アンケート及びピアレビュー評価の活用について検討する。	1-5授業評価に関する講演から授業改善に向けた授業評価アンケートおよびピアレビュー評価の活用についてヒントを得ることはできたが、十分に検討するには至らなかった。	C		1-5 現在行っている授業評価アンケート及びピアレビュー評価の活用について検討できなかったため、齋藤先生の講演を活かし次年度検討する。	1-5授業改善に向けた授業評価アンケート及びピアレビュー評価の活用について検討する。	
2 教員の研究活動を推進し研究力を高める。	2-1 研究方法に関する研修および研究報告	2-1.研究方法に関する研修は実施しなかった。学内教員からの研究報告を5月、7月に行った。教員出席率80%であった。	B		2-1研究報告については自分の研究の参考になりモチベーションにつながるので継続してほしいとの希望が多いため次年度も実施する。	2 教員の研究活動を推進し研究力を高める。	2 研究方法に関する研修および研究報告	
3 各領域のシミュレーション教育を推進する。	3-1 FD委員会活動に関する教員のアンケートを行い今年度の活動を評価する。	3-1.3月中旬にFD委員会活動に関する教員へのアンケートを実施し、回答率は40.7%であった。シミュレーション教育および授業評価の講演会は教育活動に役に立ったという回答が多く、次年度も継続してほしいという希望があった。	A	FD委員会活動に関するアンケート結果	3-1 今回初めてWebによるアンケートを実施した。回答率は40.7%であったがFD活動を評価する意見が多かった。集計も容易であることから次年度もWebによるアンケートを実施したい。	3 各領域のシミュレーション教育を推進する。	3 FD委員会活動に関する教員のアンケートを行い今年度の活動を評価する。	
								4 SD研修会



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
研究倫理委員会	3. 本大学倫理審査委員会への申請時の提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。	3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 1年に11回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。	<p>本学教職員等が産学連携活動を行う場合、特に研究活動に関連して利益相反について適切な審査を行うために本大学の利益相反マネジメントポリシーに基づき、倫理審査に必要な審査事項を定めることが必要と判断した。</p> <p>本学の研究倫理審査申請用紙には利益相反に関連する項目は様式1の2項目であり、現在の申請用紙の内容の確認と新たに必要の申請用紙を確認し作成することとした。委員会では、次の研究および利益相反に関連する指針等の内容の読み合わせを学習の機会として検討を行った。</p> <p>5月10日：「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」</p> <p>6月24日：「日本看護学会における利益相反に関する指針」「日本看護学会における利益相反状況の開示請求対応容量」</p> <p>7月29日：研究倫理申請書への「利益相反」の欄の検討</p> <p>12月23日：本学の研究倫理委員会規定(改正案)、利益相反マネジメントポリシー(案)の検討</p> <p>2月24日：「利益相反」と関連する申請書類・手続きについて</p> <p>1) 看護研究における利益相反について理解</p> <p>日本看護学会および他大学の利益相反に関する文献(主として日本看護学会、公立大学法人兵庫県立大学利益相反指針)の学習を行った。</p> <p>2) 利益相反の審査にかかわる指針、規定、申告書等の作成</p> <p>・11月4日：学長、事務局長、財務課長、委員会担当委員(高島・金子)と看護研究における利益相反に関連する規定等を話し合い、①長岡崇徳利益相反マネジメントポリシーの作成(事務局)、②長岡崇徳大学研究倫理委員会既定の改訂(事務局)、③研究に関する利益相反自己申告書(研究倫理委員会)の原案を作成し、大学運営委員会、教授会に報告し承認を得ることになった。</p> <p>・1月21日、①②③について事務局長、財務課長、委員会担当委員(高島・金子)と検討した。これら21日案を委員会に持ち帰り検討した結果、①長岡崇徳大学の利益相反マネジメントポリシーに研究に関する利益相反を研究倫理委員会が審査する記述を追加することになった。②長岡崇徳大学研究倫理委員会既定の前文に記載している諸倫理指針を以下のように最新のものに変更した。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)、「看護職の倫理綱領」(令和3年日本看護協会改訂)。③研究における利益相反自己申告書の企業からの寄付金の金額等は日本看護学会の数値を用いることになった。これを27日案として学長に報告し、さらに、利益相反についての定義、利益相反の審査にかかわる委員会の設置等について今後検討を重ねることになった。</p> <p>なお、令和4年3月10日に、文科省、厚労省、経済産業省等から「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の一部改正について(通知)があった。今後は、この通知内容も含め①②③の内容を検討し大学運営会議を経て教授会に報告し承認を得ることになった。</p> <p>3) 研究に関する利益相反審査用紙の様式、項目、書き方</p> <p>他大学の利益相反自己申告書を参考にして自己申告書を数案作成した。しかし、どの程度の金額を学外から得た場合に利益相反の可能性があるとすかなどの課題があった。27日案は更に検討を続け、本学の妥当な自己申告書を作成していきたい。作成後は、倫理申請書にも自己申告書の提出を義務付ける項目も加えるなどしていきたい。</p>	A	<p>委員会議事録</p> <p>2022127案</p> <p>・長岡崇徳利益相反マネジメントポリシー</p> <p>・長岡崇徳大学研究倫理委員会既定の改訂</p> <p>・研究に関する利益相反自己申告書</p> <p>委員会議事録</p>	<p>活動計画1と2に関連して、利益相反の倫理審査申請用紙の検討を行い、委員会規程の改訂、利益相反マネジメントポリシー、研究に関する利益相反自己申告書を作成したので評価はAとした。令和3年3月10日に文科省、厚労省、経済産業省等から「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の一部改正について(通知)があった。次年度はこの通知内容も含め、利益相反に関する申請用紙と他の申請用紙の内容を検討し大学運営会議を経て教授会に報告し承認を得たい。</p>	3. 本大学倫理審査委員会への申請時の提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。	3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 1年に11回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。	

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
研究倫理委員会	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて準備する。	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備をする。 2021年は、2020年に引き続き本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の他大学の関係する資料を収集し、作成に着手する。	令和2年度より継続提案事項として、本大学の「研究倫理綱領」と「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備が挙げられていた。今年度は他大学の文献収集等の準備に着手するまでには至らなかったが、委員会活動目標1. 2. 3の準備および検討過程において、社団法人日本看護協会の「研究における倫理指針」、文科省等からの「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を委員会で読み合い学習を深め本学の教職員等の研究活動の遂行する上で遵守すべき基準(研究倫理綱領及び指針)について話題を共有することができた。次年度は、本学教職員等の研究活動の支援について研究倫理委員会の具体的な活動目標を検討する必要がある。	B	委員会議事録	今年度は本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成準備に他大学の文献収集等に着手するまでには至らなかったが、看護協会や文科省より情報を得ることができたため評価はBとした。次年度は他の活動項目との関係から本活動内容の検討をしたい。		4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて準備する。	4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備をする。 2021年に引き続き本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の他大学の関係する資料を収集し、作成に着手する。

看護学部・看護学科の目標						
令和3年度				令和4年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。		
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。		
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。		
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題
地域連携・貢献委員会	1. 地域の住民や看護職と連携を図るとともに、本学の特色を活かした貢献を地域社会に提供する。	1. 中越地域の看護研究支援 1) 研究講座の企画・実施	1) 看護研究講座の企画・実施 (1)5回に分けて実施した。平均参加者数は、22.2名であり毎回20名を超えていた。 ・アンケート結果は、満足が多勢を占めていた。 ・3回目は、「研究計画書の作成」と「量的研究とは」の2つのテーマがあり、講師より120分では足りない旨の意見があった。 ・参加者のなかに今年度の病棟の看護研究担当者がおり、定期的に早く設定して欲しい旨の要望が出された。 ・コロナ禍であり感染に留意した実施であった。クラスター発生のため参加できない病院があった。 ・参加者が増加したことで、受付業務に追われ、急な資料の印刷が必要になった場合や、参加者から個人的な要望に対応できないなど、受付業務に支障をきたすことがあった。	A	委員会議事録	申込者数が定員20名以上であり、各回のアンケート結果も満足が多数をしめていた。また、大きな問題もなく目標達成することができたためである。 次年度に向けた課題の1つ目は、3回目に配置した2つのテーマ「研究計画書の作成」と「量的研究とは」について時間が足りないということである。また、病棟での看護研究に対応できるできるように、年度の早期に予定することである。対策として、2つのテーマを分け、全体で5回から6回にすること、さらに4月から開始し、1日で2コマを実施することとした。 課題の2つ目は、参加者数の増員により、受付業務1人では困難をきたすということである。対策は、補助として学生ボランティアを募ることとした。
		2) 相談や共同研究の推進	2) 相談や共同研究の推進 ・精神医療センターから4病棟について看護研究指導の依頼があり、精神看護領域の教員4名で対応した。	A		
		2. 地域のニーズに対応した市民公開講座の開催	9月に中村教授「ストレスフルな時代を生きる～ストレスのうまいつきあい方～」11月に駒形助教「感染予防のキ・ホン」3月斎藤教授「ひきこもり～どうなるか、社会につながる？」が開催された。アンケート結果は好評であった。参加者数がそれぞれ、14名、4名、8名であった。広報は、本学HP以外に、A4チラシをまちキャン、NaDeC、社会福祉協議会、図書館などに配置した。新たに市政だより「みんなの広場」に掲載依頼したものの、文字数に制限があり、2・3回目は講師名を掲載することができなかった。広報については、次年度に向けて検討が必要である。 ・コロナ対策は、会場のまちなかキャンパスに則って指示を遵守した。	B	6.9,11回委員会議事録	コロナ禍も原因としてあげられるが、参加者数が少ないことについて、広報の仕方を再検討する必要性が考えられ評価Bとした。課題は、多くの市民、および本学の学生に伝わる広報の方法を考え実践することであるが、対策として、大学ホームページ、市政だよりは例年通りに行い、新たなものとして、教員が関わる様々な施設に委員それぞれがチラシを持参しおいてもらうことを検討している。学内においても、学生への周知を検討する。
3. 地域のニーズに対応した看護専門職向け講座の実施	2020年度に行った長岡近隣の病院や施設、訪問ステーションを対象とした実態調査結果から、要望が多かった「救急時の対応」と「創傷管理・褥瘡の予防とケア」の2つを今年度のテーマに掲げ実施した。 ・7月に広井准教授による「救急時の対応」の講座(演習)を実施した。定員12名のところ16名が参加した。グループワークを取り入れたことで、他施設メンバーとの思いの共有ができたこと、それぞれの役割を体験できたことで現場に活かせるなどのアンケートの記述があった。 ・11月にWOC認定看護師三須恵美子氏による「創傷管理・褥瘡の予防とケア～WOCナースの専門的な活動を通して～」と題した講演を実施し41名の参加が(定員80名)あった。アンケート結果に、「最近の情報を知ることができた」との記述があり、実際にこの傾向を使っているかなどの情報を提供するなど、認定看護師ならではのものと考えられた。郵送とHPを使っただけであったが、定員に達しなかったが、コロナ禍であり参加者数について推し測れないものと考えられる。アンケート結果は、両者とも好評であり次に活かせる自由記述があった	A	第4回委員会会議録・資料 第8回委員会会議録・資料	学内の教員によるものと、外部講師によるもの、2回実施したが両者とも好評であったためAとした。テーマは、2020年に実施した実態調査結果を参考にしているが、偏りがないように他調査なども参考に決めていく必要がある。また、学内教員による研修は平日に実施したが、外部講師の場合は集客を期待して土曜日に実施した。次年度は、他委員会や大学の行事で土曜日出勤が少なくないため、外部講師の場合も平日設定を考えている。		

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
地域連携・貢献委員会	2. 災害時に対応できる学内の準備体制の推進。	4. 災害時の必要物品の調達(特に食料)	・災害に備えて、大学独自で学生と教職員の水を備える必要があるため、本数や保管場所等について検討を重ねてきた。計算上、学生数169名について、一人当たり1500ml/日として500mlのペットボトルが507本必要である。自販機のみでは必要数の確保は困難であり、ストックしておく必要があるものの、保存期限があることや、中越地震時は断水がなかったこと、災害時でも自宅に帰れる学生がいることから、どの程度調達するかについては具体化できなかった。また、自販機の鍵の場所を多くの教員は知らないという問題が浮上した。	B	第4,5,7回委員会議事録	どのくらい調達するか、具体的な話し合いの進展もみられるものの、実際に必要な本数や保管場所の提示まで具体化されなかったことから、評価Bとした。 課題は、緊急時に必要な水の本数と保管場所について、具体化し準備することである。また、経済面も考慮し、他委員会と連携してオープンキャンパスなど行事で配布する飲み物を、現在のお茶から水にして、余剰本数を補完することを進めていきたい。	2. 災害時に対応できる大学の体制整備を図る。	4. 大学独自の防災指針の策定 5. 災害時の必要物品の調達(飲料水)	
		5. 安否確認システムの導入に向けた提言	・事務局と、完成年度までの準備を目指して協議を重ねてきているものの、年度末になり経済面から予算計上の方向には行けないことが確認された。 次年度は、事務局と協力体制で、大学独自の災害指針を作成する方向である。	B	第4回委員会議事録	事務局側に提言してきたものの、実現化されていないこと、今後も経済的に不可能という回答が得られたことからこの評価となった。しかし、事務局と協力体制で大学独自の防災指針を作成するという方向性が明確になった。次年度年間計画に追記する。			
	3. ボランティア連合会、地域社会と連携し、学生のボランティア活動を推進する。	6. 災害ボランティア実践マニュアルの作成	・災害時に携帯しやすいように、ポケットサイズのものを作成した。作成に当たり、学生がボランティアとしてイラストを担当した。	A		持参しやすいポケットサイズのマニュアルを、災害看護学の山崎教員と相談しながら作成できたことから、評価Aとした。次年度は学生全体に配布して、関心を喚起していく。	3. ボランティア連合会、地域社会と連携し、学生のボランティア活動を推進を図る。	6. ボランティア連合会と連携し近隣でのボランティア活動の推進 7. 地域のボランティア募集機関との連携、及び学生参加の推進 8. 本学独自の学生のボランティア活動の推進と実践	
		7. ボランティア連合会と連携したボランティア活動の推進	・ボランティアサークルの学生自らボラ連に向き、ボラ連はそれに応じた形で、環境美化に日程を決め、実施してくれた。6月に1期生6名、9月には2期生5名が芋煮会の準備として近隣の草取りを実施し、その模様をホームページに掲げた。	A	第6,10回委員会議事録 第3,6回委員会議事録 大学HP	学生自らの行動がみられ、それを受けてボラ連は学生が参加できるような日程を決め環境美化活動を実施した。連携して学生の活動を推進したことから、評価Aとした。今後も、学生のボランティア活動の推進を目標に、連携を継続していく。			
		8. 学生のボランティア活動の推進と実践	・1年生の入学時オリエンテーションでボランティア活動について説明し、5階のボランティア専用の掲示板を紹介した。 ・新潟県少年自然の家主催の「令和3年度不登校児童生徒体験活動推進事業はつらつ体験塾に本学2年2名が参加申し込みをした。コロナ感染と試験が重なり参加できなかったが、次年度に参加希望を語っている。自然の家所長より、登録したことへの御礼の文書を学長あてにいただいた。 ・9月にまちなかキャンパス10周年記念の催しを開催する予定で学生ボランティアを募り、1年生5名、2年生8名が申し込んだ。しかし、コロナ感染拡大により、中止となった。 ・2022年1月に雪かきボランティアを募り、越後交通バス停周辺の雪かきを実施した。1年生に声をかけると「やってみたくて思っていた」という声がきかれた。1年生3名、2年生2名、教職員7名が参加した。 ・1年生のボランティア活動への参加があまりみられないため、検討した。数名からの聞き取り調査から、ボランティアには関心があるが、有償がいいこと、サークルはしぼりがあるため抵抗感がある、などがわかった。ボランティアサークルの2年生が1年生に声掛けしたものの、申し込みはなかった。また、委員会担当者からの直接的な呼びかけなどにも反応はなかった。長岡市社協(トモシア)より、毎月案内が送付され、1年生とB棟5階の掲示板に貼付しているものの、申し込みはなかった。	B	第11回委員会議事録 お礼文書 第6回委員会議事録 第10回委員会議事録 大学HP 第7,8回委員会議事録 ボランティア申請用紙提出状況	いろいろアプローチはしたものの、全体的に消極的であったこと(特に1年生)から、この評価とした。活動推進のための今後の検討が必要であるが、雪かきボランティア募集の際、参加しようという気持ちが声をかけることでわかったことから、今後も、全体への呼びかけとともに、個別に声をかけることも実践していく。 また、今後、学生に働きかけていく際に、少しずつつながってきた外部のボランティア依頼先との関係を絶やさないようにしていきたい。身近なところでは、委員会の企画(看護研究講座、市民公開講座や看護職向け講座等)や個々の教員の活動に学生のボランティアを募ることを推進する。			

看護学部・看護学科の目標										
令和3年度					令和4年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
大学連携委員会	1. 現在活動中のNaDeC、まちなかキャンパス長岡、ながおか・若者・しごと機構、高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォース部会(看護系タスクフォース)の活動に積極的に企画・参加し、他大学等との連携を深める。	1. まちなかキャンパス長岡に関する事業 1) まちなかキャンパス長岡PRコーナー 令和3年9月～10月  2) まちキャン通信 6月号  3) まちなかキャンパス運営協議会の分科会参加 ① 広報分科会活動 ② R4年度「まちなか大学」「まちなかカフェ」企画  4) まちキャン10周年記念イベント展示 9月11日 看護体験  2. NaDeCに関する事業 1) 分科会・運営委員会への参加  ① コンソーシアム会議・運営委員会の出席	(1) まちなかキャンパス長岡PRコーナー: 令和3年9月1日～10月31日 基礎看護学倉島教授による「ナイチンゲールによる看護の始まりから今日の看護を辿って」のパネル6枚を展示した。展示終了後は大学O.Cで活用した。  (2) まちキャン通信の発行: 担当月である6月号で、大学の紹介として、オープンキャンパス、基礎看護学実習の風景、高大連携、子育て支援事業などの紹介を行った。  (3) まちなかキャンパス運営協議会(開催時間18時30分以降)の3つの分科会に参加 広報分科会(年8回)、まちなか大学・大学院分科会(年9回)、まちなかカフェ分科会(年9回)に参加し、担当者を中心に活動した。 ① まちなかカフェ分科会: 令和3年度企画に参加した。また、令和4年度の企画および講師の推薦を行った。本学関係では、令和4年3月8日には母性看護学柳原真知子教授による「おじいちゃんもおばあちゃんも孫育てしよーて」の講座が実施され、長岡市民を中心に14名の受講があった。 ② まちなか大学・大学院分科会: 来年度(令和4年度)の企画として本学教員を講師として推薦した(コーディネーター1名、講師3名)。 ③ 広報分科会: PRコーナーの準備、まちキャン通信の作成、令和4年3月～4月に行う4大学1高専との合同展示のパネルを作成した。  (4) まちキャン10周年記念イベント展示 9月11日(土) 看護体験に向けて各領域の先生方と相談しながら、展示内容の検討、プログラムの検討など準備を着々と進め、体験コーナーへの7項目提供を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延が拡大したため、やむなく中止となった。	A  A  A  評価なし  A	・パネル6枚 「ナイチンゲールによる看護の始まりから今日の看護を辿って」(倉島教授作成)  ・まちキャン通信6月号  ・まちなかキャンパス運営協議会第2回総会資料(R4.3.17実施)  ・イベントポスター	目標1:ほとんどの項目において、コロナ禍の中、工夫しながら目的を達成できた。まちキャン長岡、NaDeCの分科会には夜間の開催であったが、各委員が参加し、大学で行う活動についてはできるだけ実施した。残念だったのは、1)-(4)まちキャン10周年記念イベント展示についてである。提案、準備などを学内で十分に検討し、まちキャン長岡担当者とも連携しつつ実施直前まで進行していたが、新型コロナウイルス感染症拡大となり、やむなく中止となったため、評価Cとした。 学生委員の活動については、昨年度サポートができず、学生まかせとなっていたが、今年度は組織だった活動とまでは言えないが、アナウンスなどでサポートができた。まちキャン長岡、NaDeCの活動は今後益々活発化していくが、その分担当者の負担も大きい。できる範囲を考えて実施していきたい。	1. 現在活動中のNaDeC、まちなかキャンパス長岡、ながおか・若者・しごと機構、高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォース部会(看護系タスクフォース)の活動に積極的に企画・参加し、他大学等との連携を深める。	1) まちなかキャンパス長岡に関する事業 (1) まちなかキャンパス長岡PRコーナー展示 令和3年9月～10月 (2) まちキャン通信 6月号掲載に向けて広報委員会と共同実施 (3) まちなかキャンパス運営協議会の分科会参加 ① 広報分科会活動 ② R4年度「まちなか大学・大学院」、「まちなかカフェ」の企画と実施 2) NaDeCに関する事業 (1) 分科会・運営委員会への参加 ① コンソーシアム会議・運営委員会の出席 ② 就職・インターンシップワーキングG(8月企業紹介イベント担当) ③ 産学協創ワーキングG(本学とコラボを望む企業との連携) ④ 授業連携ワーキングG(長岡学担当) ⑤ 起業支援ワーキングG 3) 長岡しごと体験ランド 参加のための具体的な企画・運営 4) 看護系タスクフォースの参加(令和3年度はニュースレター通信作成) 学生と共に参加 5) 米百俵プレイス(子どもラボへの協力)		



看護学部・看護学科の目標								
令和3年度						令和4年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。						1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。		
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。						2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。		
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。						3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。		
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
大学連携委員会		<p>②就職・インターンシップワーキングG(8月企業紹介イベント担当)</p> <p>③産学協創ワーキングG(本学とコラボを望む企業との連携)</p> <p>④授業連携ワーキングG(長岡学担当)</p> <p>⑤起業ワーキングG</p>	<p>②就職・インターンシップワーキングG: 企業紹介の事業があり、本学は長岡西病院の紹介動画を作成するための調整(看護部へ2回訪問)を行い、You Tubeにあげることができた。動画については長岡西病院内で病院職員により撮影されたものを、長岡市の地域おこし協力隊が編集した。</p> <p>③産学協創ワーキングG: 本学とコラボを望む企業との連携については勧めていくことが難しかった。</p> <p>④授業連携ワーキングG(長岡学担当): 「長岡学」として、4大学1高専の学生を対象に企画した。本学では、「生きるを支える長岡の地域包括支援と看護職の役割」として、母性看護学高島教授と在宅・公衆衛生看護学古澤助教が共同でオンライン講義を実施した。参加者の直接の募集が遅くなり、全体では58名の申込があり、本学からは1名の学生が参加したのみだった。令和4年度のテーマとして「長岡の地名と災害の関係」を提案した。</p> <p>⑤起業ワーキングG: 様々な企画が提示されたが、本学のカリキュラムとのマッチングが難しく、学生の参加はなかった。</p> <p>⑥運営委員会: 発足当時の三大学一高専をイメージした三角錐(Nagaoka Delta Cone)は長岡崇徳大学が新たに加わったこと等、現状に合わなくなってきた。そこで①千秋エリア(造形大)②悠久山エリア(長岡大学、長岡高専)③西部丘陵エリア(長岡技大、長岡崇徳大学)を三角錐の底辺として④三角錐の頂点にNaDeC BASEエリア(商工会議所、長岡市)を位置付けることに変更された。 令和4年度に向けてイヤープックを作成しており、本学からも学生委員会の活動や地域貢献活動についての紹介文を提案した。</p> <p>⑦学生委員の活動支援: 本学は2名の学生が務めており、様々な企画や活動を行っている(月1回のミーティング)。担当学生からは「他大学の学生や社会人との接点を持つことで視野が広がった」との意見が聴かれた。また、1年次生に向けて、学生委員2名と大学連携委員長がNaDeCと学生委員の紹介アナウンスを実施した。</p>		<p>・「長岡学」講義資料(高島教授・古澤助教作成)</p>			
		3. 長岡しごと体験ランド(2020年はコロナ禍のためDVD作成)参加のための具体的な企画・運営	<p>・「長岡しごと体験ランド」は「プチ長岡しごと体験ランド」と称した長岡市内企業5社による小学生を対象とした企画であり、昨年度に引き続き、WEBでの動画配信による職業体験イベントとなった。本学は、共催としての承諾の可否を求められ承諾した。</p>	A				
		4. 看護系タスクフォースの参加(2020年度は通信作成)学生と共に参加	<p>4) 高等教育コンソーシアムにいがた・看護系タスクフォースの参加(2020令和2年度はニュースレター「NSN通信」作成) ・令和3年度も1回のオンライン会議が実施されるにとどまった。 ・令和3年度もニュースレター「NSN通信」が発行され、本学からは学生2名が編集に参加した。 学生への周知はポータルサイト、教職員への周知は大学ホームページ及び学内メールを通して行った</p>	A	<p>・新潟県内5大学連携「N5(エヌファイブ)」ニュースレター「NSN通信vol.3」※HPはR4.1.20付「お知らせ」に掲載</p>			

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
大学連携委員会	2. 大学連携委員会の規定に基づき、長岡崇徳大学と長岡市内4大学1高専および他地域大学と有機的に連携を行う。		通常行ってきた活動に加えて、他の新潟日報地ラボや学習会など要請のあった本連携委員会を窓口とした事業については、目的を勘案し、他の委員会(学生委員会キャリア支援)等と協力して、できるだけ参加実施する。という目標を立案したが、新しいプロジェクトはなかった。	B		目標2:「大学連携委員会の規定に基づき、長岡崇徳大学と長岡市内4大学1高専および他地域大学と有機的に連携を行う」については、目標1との関連において実施してきた。しかし、新規事業の依頼やプロジェクトはなく、活性化した活動とは言えなかったため、評価はBとした。	2. 大学連携委員会の規定に基づき、長岡崇徳大学と長岡市内4大学1高専および他地域大学と有機的に連携を行う。	2 について 1)通常行ってきた活動に加えて、他の新潟日報地ラボや学習会など要請のあった本連携委員会を窓口とした事業については、目的を勘案し、他の委員会(学生委員会キャリア支援)等と協力して、できるだけ参加実施する。	
	3 1, 2の活動を通して、学生、地域に還元する。		1)まちキャン長岡やNaDeCの学生委員の活動支援としての相談窓口 ・まちキャン長岡では3名、NaDeCでは2名の学生が担当しており、様々な活動を学生として行っている。まちキャン長岡学生委員とは話し合う機会はなかった。一方、NaDeC学生委員からは働きかけがあり、1月に1年次生に向けて、学生委員2名と大学連携委員長がNaDeCと学生委員会の紹介アナウンスを実施した。 2)学生への広報活動に努める ・学内掲示やポータルサイト、直接説明に向くなどを実施した。	B		目標3:「目標1, 2の活動を通して学生や地域に還元する」という目標については、掲示やポータルサイトでのアナウンスなど実施してきたが、「長岡学」の本学受講者が1名と少なく、周知が十分とは言えなかった。しかし、学生委員はまちキャンやNaDeCの活動に主体的に参加しながら活動しており、提案も取り入れられているので評価Bとした。次年度はNaDeCで作成したイヤーブックを使用して、学生に活動を伝えていきたい。	3. 1, 2の活動を通して、学生、地域に還元する。	3 について 1)まちキャン長岡やNaDeCの学生委員の活動について、相談窓口をつくり支援する。また、委員の交代をスムーズに行う。 2)学生への広報活動につとめる	
	4 本学における起業を検討する。	5. 本学における起業について検討する。	1)本学における起業について1歩進めるように検討する。 ・以下を掲げたが、ほぼできなかった。 ①大学連携委員会メンバーのアイデアを話し合う ②大学教職員のアイデアを募る ③長岡市の地域おこし協力隊などの助言を受ける ④令和2年度産学協創委員会アンケートで本学とコラボを希望した2社と具体的な話し合いをすすめる	C		目標4: 本学における起業を検討するという目標は達成できなかった。まちキャン長岡の活動やNaDeCの活動を通じて起業を模索はしたが、看護というソフト分野を利用した起業という発想には至らなかったため、評価Cとした。	4. 本学における起業を検討する。	4 について 1)本学における起業について1歩進めるように検討する。 ①大学連携委員会メンバーのアイデアを話し合う ②大学教職員のアイデアを募る ③長岡市の地域おこし協力隊などの助言を受ける ④令和2年度産学協創委員会アンケートで本学とコラボを希望した2社と具体的な話し合いをすすめる	
		その他	・長岡市商工部産業イノベーション課から介護イノベーション・ハブの取組として介護ベッドと移乗を助けるリフト開発に関して意見交換したいとの申し出があった。2月8日オンラインにて大学連携委員会(中村学部長、高島、目黒、古澤)が参加し、意見交換した。	A		大学連携委員会の活動範囲は長岡市と4大学1高専との活動であるまちキャン長岡、NaDeC、ながおか若者ごと機構の活動にとどまらず、長岡市中心市街整備室から、米百俵プレイスマイエ長岡「子どもラボ」連携ワークショップの依頼、加えて看護系タスクフォースや地ラボの活動など多岐にわたっている。委員の人数が限られている中、活動の整理をしながら、できる限り他大学や長岡市と本学を繋げる活動を展開する必要がある。			

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
国際交流委員会	1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現況や文化について学ぶ機会をつくる	1-1.介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会を設ける、インドネシアの医療・福祉・文化について理解を深める(6月)	1-1.介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会を設ける、中国やネパールの医療・福祉・文化について理解を深める(6月) 6/9長岡医療福祉専門学校介護学科の副校長・学科主任と交流会の目的や開催方法について検討。介護学科出席は2年生のほうが話題提供しやすいのではないかと考え、的を絞った(加岡・山崎委員)。 6/28(月)16:00~203教室での開催を計画したが、介護学科のコロナワクチン接種日程と重なり、延期になった。介護学科長を窓口として冬季の開催を検討したが、新たな計画には至らなかった。	B	6/9介護学科副校長および学科長との打ち合わせ	1-1.「介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会についての活動評価は、身近な国際交流の促進のための第一歩の開催を設定できなかったため「C」評価とした。身近な課題で、数人の学生間交流を図ることから開始し、交流の壁を取り除くことから始める必要性があると考えられた。	1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現況や文化について学ぶ機会をつくる	1-1.介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会を設ける、中国やネパールの医療・福祉・文化について理解を深める 1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける 1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する	
		1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける(10~11月)	1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける企画について、長岡技科大の国際交流課を訪問し、国際交流センター長、副センター長、国際交流課長に面会した。長岡技科大での組織および活動経験についてお聞きした。また、国際学生サークル(NUTISA)の活動への本学学生の参加可能性について情報を得た。感染防止対策による制限のため、NUTISA会長に直接面会はできなかったため、メールで連絡を行った。 11月9日に長岡技科大の留学生の会(NUTISA)会長から活動についての連絡があった。①「無料食料品配布(新潟県フードバンク連絡協議会より提供)毎月1回実施、②、英語と日本語)の実施11/24。チラシの掲示を行ったところ、2名の教員から問い合わせがあったが、日程が合わず参加はなかった。学生は、授業や実習の真ただ中で、対応が難しいと考え掲示による周知にとどめた。	B	・日本酒のオンラインセミナー(長岡技科大の留学生の会:NUTISA主催)チラシ ・留学生向けフードバンク活動(NUTISA主催)メールでの通知。  コロナ禍で9~10月の長岡技科大の構内での活動が中止のため、また長岡市内の人流抑制の観点から、秋の学生間交流の機会は全て中止とした。	1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設けることについて、コロナ禍の授業再開ではあったが、対面の大学間交流機会はなかった。国際学生サークル(NUTISA)会長とのメール交換により、コロナ禍での活動の一旦を紹介していただいたことで「B」評価とした。感染者数減少の時期を見定めながら、学生間交流の機会を促進していくことが課題である。			
		1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する	コロナ禍で9~12月の学外活動は、臨地実習以外は中止となったため、長岡市内での交流計画は行わなかった。	評価なし	(コロナ禍のため活動なし)	1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集と学生への紹介に関しては、コロナ禍で長岡市内の企画が中止されている状況であったため、評価なしとした。			



看護学部・看護学科の目標						
令和3年度				令和4年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。		
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。		
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。		
年度当初記載			年度末記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題
実習委員会	1. 1・2・3年次の実習が円滑に実施できる。	1. 1・2・3年次の実習が円滑に実施できる。 1) 実習物品の準備及び調整  2) 実習窓口担当中心にした実習病院との連携  3) 実習オリエンテーションの実施	1) 実習物品 ・領域での希望必要物品を記載してもらい一括購入した。6F資料室に、キャビネットを配置して保管し、持ち出し簿にて管理した。実習施設の要望により手指消毒用アルコール、コロナウイルス保護メガネ等の購入を追加したが、予算内で購入でき、物品の不足はなかった。 ・ペーパータオル・紙コップが残ったが、施設でペーパータオルが準備されていた為使用しなかったことから次年度の購入は控え、学内使用も今後検討する。 ・実習用携帯電話については、事務での一括管理となり、領域での借用数を事務に連絡し、領域内で調整して使用し、不要(実習終了)になり次第、基礎看護学実習での借用と引き継がれることとなった。  2) 実習調整 ・実習窓口担当により複数の領域の実習の調整が行え、実習委員会での報告に、実習委員会フォルダへの記載にて情報共有をして領域別実習を実施することができた。 ・実習病院との契約や必要物品については、実習窓口担当が、実習前訪問にて、実習物品、実習費の請求部署等も含めて確認を行い、事務と連携し円滑に実施できた。  3) 実習オリエンテーション ・基礎看護学実習は、基礎看護学領域が担当した。 ・3年次の領域別実習のオリエンテーションを2コマ実施した(5月27日)。オリエンテーションを5月末に実施したことは、学生が早めに実習の準備ができ、効果的だったと思われる。なお、教員の出席は、コロナ禍のため担当領域のみとし、換気をしながら実施した。 ・実習に向けたコロナ対策等のオリエンテーションについては、実習施設の要請によることを説明することで、学生のアルバイトや生活の自粛に活かすことができた。結果、発熱や家族に濃厚接触者が出た場合は、実習担当者に速やかに連絡があり対応することができた。 ・基礎看護学実習Ⅰの見附市立病院で写真を撮りSNSにアップした学生がいた。これは実習先の看護師からの苦情で発覚した。1期生の基礎実習にも同様の事例があったことから、基礎看護学実習前のオリエンテーションでの強化が必要である。また、本事例から学生の自覚を促すために、誓約書は求められる病院のみでなくすべての病院に提出すること、領域の実習時のオリエンテーションでの個人情報保護の指導を強化した。 ・個々の領域別実習オリエンテーションでは、前実習終了時間を守って実施している(実習時間確保の厳守)。結果、5限が次実習のオリエンテーションとなる。帰宅時間が遅くなることにより、冬季間の雪による事故防止の意味から、検討していくこととなった。	A	実習備品参照  実習関連 実習窓口参照  5月27日3-4限に実施(時間割参照)	・目標1については、Aとした。Aに評価した理由は、学生数が39名(1名の学生が、実習への意欲が低下し、母性看護学、精神看護学、在宅看護学の単位修得後欠席して38名)と少なかったことが大きい。実習指導及び病院との調整において教員・臨地が十分に関わることができたことが要因である。
年度当初記載			年度当初記載			
委員会目標	年間計画	委員会目標	年間計画			
1. 1・2・3年次の実習が円滑に実施できる。	1. 1・2・3年次の実習が円滑に実施できる。 1) 実習物品の準備及び調整  2) 実習窓口担当中心にした実習病院との連携  3) 実習オリエンテーションの実施	1. 1・2・3・4年次の実習が円滑に実施できる。	1. 1・2・3・4年次の実習が円滑に実施できる。 1) 実習物品の準備及び調整 2) 実習窓口担当中心にした実習病院との連携 3) 全体及び領域別実習オリエンテーションの実施・調整 4) 実習指導必要人数の要望 5) 学生情報の臨地への情報提供の基準作り			

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
実習委員会			<p>4) 学生実習配置 ・実習学生の配置は、グループ・ダイナミクスを考え、1期生のアドバイザー、アドバイザー長と相談し、成績、住所、人間関係を考慮して決定した。実習委員会では、グループでの学生間のトラブル等の報告はなかった。 ・一部学生から、実習先の不満が聞かれたが、領域別実習では、住所を考慮することは難しいことを説明して相談する旨のみ返した。その後、当事者から申し出がなかったので変更せず実施した。</p> <p>5) 実習着・ナース靴 ・実習のユニフォーム、靴等の購入に向けて業者と連絡を取った。ユニフォームの採寸では、三密を避けた環境を整え、4年間着用するユニフォームであることやナースシューズの選び方を指導して実施した。1期生にみられたナース靴が合わないと言った苦情はなかった。</p> <p>6) 学生情報の共有化 ・特別な配慮をしなければならない学生については、実習委員会で学生情報を共有して実習指導を行った。一部の実習施設では、臨床側から学生に対する情報開示の不足等の厳しい意見もあったが、そのために他者に損害や不利益を与えることはなかった。他の実習施設では、事前に説明を行うことで配慮していただき特に問題なく実習を行うことができた。今後は、合理的配慮の必要な学生の早期情報収集と学生面接を行い、施設への情報提供、配慮項目について、学生に不利にならないような基準の作成が必要と思われる。 ・実習指導上、特に気になる学生については、原則として、実習担当教員が次の実習担当に申し送ることとなった。 ・実習中のハラスメント関連(受け持ち患者に寄る学生の写真撮影)について実習担当教員が対応したことが報告され、各領域でも注意していくこととなった。</p> <p>7) 追実習・再実習の考え方 ・学生便覧(p.31)にあるとおり、「追実習」は実施し、評価点については科目試験と同様の考えで行うこと、実習の到達度に不足のある学生については「再実習」という表現はせずに、不足の部分を領域の責任で補うこと、それでも合格点に到達しない場合は、その理由を明確にした上で不合格とする事が合意され、教授会で報告した。</p> <p>8) ほか ・教員の実習着のクリーニングについて大学負担の要望があり、事務と調整した結果、大学負担が承認され、方法について一斉メールで周知された。 ・実習補助要員の確保について、領域の希望を提出し、中村学部長が集約し、進めていくこととなった。 ・実習期間中の図書館開館延長の申し入れ19時迄となった。 ・実習では、実習施設から学生の感染予防のためのワクチン接種が求められている(臨地実習共有要項p.14)。実習担当教員についても求められる場合もあり、小児感染症抗体価等の検査の要望が実習担当教員よりあった。基礎看護学実習では、費用負担が大学であったことから領域別実習担当教員について申し入れをし、抗体検査結果の証明ができない教員について名簿を提出し、検査が実施されることとなった。学生と共に教員も感染源あるいは感染者となりうることから留意していくことが再確認された。今後は、入職時に検査を求めることとなった。</p>		<p>2021年度実習ローテーション表参照</p> <p>ことりやとの対応</p> <p>「私の聴こえ」参照</p> <p>会議録参照</p> <p>各実習要項参照</p> <p>2021年8月4日 教員への抗体検査について一斉メールにて周知</p>				

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
実習委員会	2. 新たな実習施設の開拓をする。	2. 新たな実習施設の開拓 1) 領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2) 文科省の認可については事務局と連携して進める。	・コロナ禍による受け入れ施設の学生数の減少、学生数の増加に伴い新たな実習施設の開拓や実習受け入れ人数の調整を行い、小児看護学、老年看護学、成人看護学、在宅看護学で実習施設を開拓し、必要に応じて事務と連携し文科省への変更承認申請を行った。	A		・目標2についてはAとした。Aに評価した理由は、2022年度は、学生数が増加するが、実習施設では一日の学生の受け入れの人数の変更があり、次年度を見据えた実習施設の開拓を行い実習施設が確保できた。	2. 新たな実習施設の開拓をする。	2. 新たな実習施設の開拓 1) 領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2) 文科省の認可については事務局と連携して進める。	
	3. 2022年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。	3. 2022年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。 1) 実習要項の作成および製本 2) 実習病院との契約及び必要物品の確認	1) 領域別実習要項 ・領域の実習委員が中心になり、実習要項2022年度版の作成をし、実習要項担当が業者に依頼し、予定通りに納入された。 ・委員の製本業者との交渉(調整)で、昨年度多かった乱調・落丁がなく6Fキャビネットに収納した。 ・要項を二穴にすることを失念したことから、学生への配布時に領域で実施とする。 2) 統合実践実習要項及び実施準備 ・実習の科目責任者は、中村学部長の指示により実習委員長が担当することとなった。統合実践実習の科目責任者は、他大学では学部長が担当していることから、統合実践実習要項作成当初から、中村学部長への働きかけが必要であった。 ・実習委員から統合実践実習の担当者を選出し、2022年度版実習要項を作成した。 ・統合実践実習の目的・目標に沿って、教員に概要を説明した。学生には、実習オリエンテーションを実施後に実習希望調査に基づき実習施設の配置をした。 ・実習施設については、実習指導担当教員数から学生の受け入れ人数が多い病院、学生の実習経験のある病院を中心に決定した。また、実習指導者会議で統合実践実習の概要を説明し、実習施設名・学生数を公表した。 ・担当教員の配置にあたっては、統合実践実習の目的から全領域から1名の担当教員を配置することで、実習委員が調整にあたったが、協力が得られない領域があった。そこで、教員配置については、中村学部長の指導のもとで、基本的に助手が実習にあたること、領域別実習での時間数から決定した配置となった。その後、基礎看護学教授から演習との授業で実習に出せない申し出があり、中村学部長に報告し、実習委員長が実習対応することとしたが、授業があり、実習委員長が担当することとなった。担当教員については、教員・学生に周知し、4月早々に担当教員から学生にメール配信することとなった。	B	3月1日2限 3年次学生へのオリエンテーション  2022年度統合実践実習配置表参照  2022年統合実践実習関連記録参照	・目標3については、Bとした。Bに評価した理由は、統合実践実習において学生の希望により実習施設が拡大することで担当教員の配置が懸念された(実習担当の協力が得られなかった)ことから、実習場所を縮小して学生に提示をしたからである。新潟県に残る学生が多くなるように確保した実習施設であったが、教員の協力が得られなかった。2022年度は、完成年度を迎えることも踏まえ、担当教員の不足から実習要項の変更も視野に入れ検討する必要がある。	3. 2023年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。	3. 2023年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。 1) 実習要項の作成および製本 2) 実習病院との契約及び必要物品の確認	

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
実習委員会	4. 実習施設との連携体制を整える。	4. 実習施設との連携体制を整える 1) 実習指導者会議の開催	1) 実習指導者会議(3月11日13:30~15:50)はリモート会議で実施した。 当日は、11年前に東日本の震災のあった月日であったこと、コロナ禍であることにも触れ、開会宣言をした。案内は、37施設で参加施設25、参加者40人であった。 ・12月13日の会議で1月初旬に本学での開催案内を出す予定であった。コロナ感染が拡大したことによりリモート開催に変更しようとしたが、すでに案内が出ていることから再度修正した案内を出すこととなった。12月の時点でリモート開催を決定すべきであった。また、案内文については事務局と連携して社会情勢を踏まえた対応の必要があった。双方の確認不足であった。 ・参加者には、事前に資料を添付しURLを送ったが、届かなかった施設が2件あった。配信履歴があることから何らかの不具合が生じたものと思われる。届かないと申し出のあった施設から開始前に電話連絡があり、会議に参加することができた(資料は印刷できなかったようだ)。届かず残念だったというメールが再度あり、丁寧にお詫びをした。 ・領域別の実習の成果の発表は、時間オーバーの領域もあり、発表内容の整理をして時間オーバーしないような工夫も必要と思われた。また、報告目的を明確にし、報告内容の精選の必要性も今後の検討課題となった。 ・交流会では、事前に意見の発表を参加施設にお願いしたことでも時間を有意義に使うことができたが、意見交換が領域全体にできるような工夫が今後の課題となった。案内には意見交換と明記していたが、会議中にパワーポイントで意見交換の目的や具体的な内容を表示することで意見が出しやいのではないかと参加施設の声もあり今後活かしていくこととなった。 ・2022年度に4年次生の実施予定の成人看護学実習Ⅲ、統合実践実習、保健師課程の実習について概要の説明を行い実習への導入とした。 ・参加予定施設には、統合実践実習のみ受け入れる施設もあり、実習希望学生が2022年度は、いないことも情報として施設に事前提供した結果、不参加の施設もあったが、本学は新潟県に就職する学生を育てるために新潟県特別選抜や4年次の統合実践実習の実習施設を幅広く開拓したことを伝え、理解が得られるように配慮した。年度初めに実習要項を基に説明に伺うことを伝えた為か、実習そのものについては、特に質問等はなかった。 ・WEBのせいかなアンケートに回答した施設は25施設のうち、9施設であったが概ね前向きな内容であった。この結果とお礼を参加届出施設のURLに送信することとなったが、業務の関係で不参加であった施設もあったことから封書で送ることとなった。案内を出した37施設のうち、不参加施設:①鏡文・会議次第・実習成果・アンケート結果、参加施設:参加のお礼・アンケート結果を送付した。また、図書委員より図書館からも依頼され同封し、封書にて送付した。	B	実習指導者関係書類参照	・目標4についてはBとした。Bに評価した理由は、実習指導者会議を年末・年始の状況からリモートに変更すべきと学部長に連絡し、変更の了解を得たが、既に案内が出た後であった。実習委員として、早期に決断すること、社会情勢に対応した事務・委員会の連携の必要性があった。リモート会議は、委員の実習施設との連携による充実した会議であった。	4. 実習施設との連携体制の強化	4. 実習施設との連携体制を整える 1) 実習指導者会議の開催 2) 実習窓口が中心となり、窓口担当役割に沿って実習調整をする。	
		2) 実習窓口が中心となり、窓口担当役割に沿って実習調整をする。	・1.2)に準じるが、実習施設との連携は、実習窓口が中心となり、窓口担当役割に沿って実習調整し、実習委員会で情報共有をして実習にあたった。		実習窓口担当				



看護学部・看護学科の目標							
令和3年度				令和4年度			
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。			
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。			
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。			
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標
							年間計画
実習委員会	5. コロナ禍に対応した実習への取り組みができる。	5. コロナ禍に対応した実習の取り組みができる。 1) 実習中の感染防止マニュアルの見直し  2) 学内実習に向けた環境の整備  3) 各領域の取り組みの共有化	1) 学生へのオリエンテーション ・実習中のコロナ感染防止マニュアルを作成し、実習施設の要請に合わせて追加修正し、学生及び実習施設に配布して実習施設・大学・学生(保護者含む)と共有して実習に臨むことができた。 ・領域別実習については、家族のコロナ感染等も影響することから、保護者に向けて協力をお願いを事務局に郵送を依頼した(7月)。 ・実習に関連するコロナ対応については、報告された事例は、経過を記録し、次年度に活かせるように状況と対応を記録した。 ・新型コロナウイルス対策委員会に実習委員長がメンバーの一員となったことにより、実習のコロナ感染対策マニュアルと本学の新型コロナウイルス感染症対策危機管理レベルに沿って学生指導を行うことで、統一した指導ができた。また、基礎看護学実習が学内実習となった経緯を知ることができた(これまでは時間を経ってから知ることになっていた)。 ・PCR検査の必要な実習先の情報提供により委員で共有した。  2) 学内実習に向けた環境の整備 ・コロナ禍における各領域の取り組みとして、日本看護系大学調査結果が共有され、学内での領域の工夫が報告された。 ・コロナ禍で実習不可の施設も一部あったが、学内でそれぞれの領域の工夫(DVD活用、臨地とのWEB、独自の演習ビデオ作製、学内での看護過程、事例展開)等により臨地を想定した実習を行うことができた。また、学内実習においても、密にならないように換気・飛沫防止パーテーション・アルコール消毒をして実施した。  3) 各領域の取り組みの共有化 ・学内実習では、一部の実習施設の受け入れ中止のために各領域の実習の取り組みについては、上記2)で情報共有した。各領域の実習評価は平均80点(母性は79.2点)以上で高得点であり、コロナ禍であったが、実習目標が達成できたと思われる。  4) コロナ感染防止マニュアルに沿って実習欠席の対象となった学生 ・2021年10月22日時点で成人看護学実習1名、母性看護学実習2名であった。欠席日数は、学内にて補い修了した。	A	長岡崇徳大学コロナ感染防止マニュアル参照  臨地実習時の注意事項について(ご協力のお願い)  コロナ対策参照  2022年1月20日より  小児看護学(保育園実習)  会議録参照	・目標5については、A評価とした。Aにした理由は、学生へのオリエンテーションが浸透し、発熱時は速やかに連絡があった。また、コロナ感染症にて実習を休むこともなかった。このことは、大学が学生・教職員の予防接種を速やかに実施したこと、教員・大学が実習中のコロナ感染防止マニュアルを作成で統一的な指導が行えた(施設・学生・保護者・大学で共通認識できた)成果であった。  【課題】 ・次年度は、学生数の増加、4年次生の実習科目も加わる事から、臨床や教員間の連携を強化した実習指導体制の構築 ・実習補助教員の補充に向けた要望の継続と情報提供 ・コロナ禍に対応した実習指導体制で、実習受け入れ困難な場合に臨地と協力した実習の指導方法の検討 ・完成年度にあたり、統合実践実習の結果を参照し、統合実践実習の目的・方法の変更を含めた2023年度の領域別実習要項の見直しの検討の周知 ・実習指導者会議の領域別報告の簡素化、全体会と実習窓口担当施設の2部の交流方法の検討 ・実習オリエンテーションの時間について学生の帰宅時間を考慮した実習全体の各領域オリエンテーション時間の考え方の統一の検討 ・合理的配慮の必要な学生への実習施設への情報提供のありかたについての検討 ・1年次、2年次生を含めた個人情報保護の遵守についての指導の強化	5. コロナ禍に対応した実習への取り組みができる。 1) 実習中の感染防止マニュアルの見直し 2) 学内実習に向けた環境の整備 3) 各領域の取り組みの共有化

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
国家試験対策委員会	各学年担当により年間目標を立案し運営実施する 1. 一年次: 1) ドリル学習による学習習慣をつける(評価アンケート)、 2) 解剖生理の知識の定着化を図る(評価テストの得点が9割の学生が60%以上である)、 3) ドリル学習により基礎力が得られる(評価: テストの得点が9割の学生が60%以上である) 4) 模擬試験の結果を自己分析できる(評価リフレクシオンシートへの記入)  2. 二年次: 1) 解剖生理等の基礎力が得られる(評価: テストの得点が9割の学生が60%以上である) 2) 模擬試験の結果を自己分析できる(評価リフレクシオンシートへの記入 ポートフォリオにより振り返る)  3. 三年次: 1) 解剖生理・疾患の知識の基礎力を得られる(評価: 業者模試で全員60%の得点が得られる) 2) 看護の一般的知識の習得が図れる(評価: 業者模試で全員60%の得点が得られる)  4. 四年次: 計画は立てているが、本年度実施はない  5. 教員の学習指導力を高めることができる(学生の学習力を高める検討会を開催できる)  6. 学生委員の活動を促す(評価: 委員会を年4回開催し、学生の主体的意見で活動できる)  7. 「国まる」のソフトおよび周辺機器の購入による作業の迅速化を図る	1. 一年次: 看字ドリル学習とテスト3回、解剖生理教員模試2回、業者模試1回、解剖生理ドリル学習の開始、各試験への個別相談  2. 二年次: 看護計算ドリル(低得点者のみ)と個別相談、解剖生理ドリル学習の継続と個別指導と教員作成試験2回、業者模試2回  3. 三年次: 必修問題ワークブック学習と個別指導、教員模試2回、業者模試5回と個別相談、業者講義1回  4. 四年次: 計画の実施なし  5. 担当委員による事例検討会  6. 学生委員会の開催: 年4回  7. 試験問題作成と回答用紙(マークシート)処理ができるソフト「国まる」及び付属機器の購入をする	1. 予定された計画はすべて実施された。なおドリル学習の評価をテストで行ったが、合格ラインに達していかずこれまで様子を見ることにしていたが、それでは成果が上がらないので、合格ラインに達するまで次年度は再テストをする必要がある。看字テストの計算問題低得点者には、プリントしたドリル学習を行った。  2. 予定されたドリル学習はすべて実施された。なお解剖生理の業者模試試験は、全国順位最下位グループに入る状態である。このため、解剖生理の教員模試試験の内容を、授業内容と合わせて行い、知識の定着化を図り、業者模試の得点を底上げできるようにする。また、学生自身が不得意分野を知り、補強に努める様指導を強化する  3. 予定された模擬試験は計画通り実施された  4. 4年次生の学習計画を立案した  5. 低学力学生についての対応は、委員会の中で検討して対応してきた  6. 国家試験対策の学生担当者の会の開催が十分でなかったが、次年度4年次となる学生委員の役割を明確にした。  7. 国まるの購入により、模擬試験の結果を早急に出せる様になり、活用できている	A	委員会議事録 模擬試験結果報告書	「国まる」導入で採点の負担が軽減された。国家試験直後の自己採点ができ早々に可否の予測が図れる。解剖生理の模擬試験の得点が低く課題であるが、教員模試の改善を試みているので、新年度の成果を見ていきたいと考える。学生委員の活用が十分ではないので、今後の課題である。 業者模試やゼミを取り入れたが、どの業者がよいのかの評価の検討も必要である。 当大学の特徴として模擬試験の得点の乖離が大きく、低得点者のボトムアップが大きな課題である	1. 1期生の看護師国家試験合格100%、保健師国家試験100%合格をめざし、イーラーニングの活用を計画に入れ、合格を達成できる計画の改善を試みながら実施できる。  2. 解剖生理の学力向上の計画を実施し、実施の都度評価し改善をする  3. 国家試験勉強のための環境整備を図る  4. 国家試験対策の学生の委員の活動の充実を図る  5. アドバイザー・ゼミ教員と連携を強め、学生へのきめ細かな指導を行なう	1. 4年生の年間計画(別紙)に沿って、①模擬試験、業者補講、教員補講を実施する、②イーラーニングの活用ができる  2. 1年生～2年生の解剖生理の学習方法の改善が効果をもたらすかを評価し次の改善へと繋げる  3. 国家試験の環境整備: 図書館の土日以降の依頼、専用の教室、グループ学習のためのゼミ室の確保、国家試験対策専用掲示板設置、図書室の充実  4. 国家試験対策の学生委員の活用: 4年生は定期的開催し、1～4年生合同の会を年2開催し、情報交換を図る  5. 模擬試験の結果を公開し、ゼミ教員やアドバイザー教員が低学力者の把握を行い、国家試験対策委員と連携し適切な指導ができる	

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
図書館運営委員会	1.図書館利用の促進	1-1)グループ学習室の利用環境を整える	1-1)グループ学習室の利用環境を整える 環境整備に向けて、1月から暖房の温度が上がらず石油ストーブを1台入れてもらうことができた。3月に暖房機の見積もりを出した。 図書館内での飲食禁止を学生に周知したが、グループ学習室内で飲食をする学生がまだまだいる状況があった。	B	会議録	1-1)グループ学習室の利用環境を整える:評価B 環境整備に着手できたが飲食に関して表示をしていく必要がある。	1 図書館利用促進(学生、教職員)	1-1) グループ学習室の利用環境を整える 1-2) 利用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する 1-3) 図書館だよりの発行:学生、教職員による年2回の定期的な発行をする ・図書館だよりは、学外利用者への周知のためにも、年2回の発行を目標とする。9/30、3/31発刊とし、学生オリエンテーション時に配布できるようにする。前期は図書館からのお知らせ・報告、後期は読書案内などの内容とする。	
		1-2)利用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する	1-2)用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する 毎月の利用状況については、会議で公表し、図書館だよりの中で年間の利用者数を公表できた。しかし、教授会での報告はなかった。	B	図書館だよりの	1-2)用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する:評価B 概ね計画通りにできた。もう少し図書館内に利用者情報、新刊図書などの情報を掲示できる場所があってもよい。			
		1-3)図書館だよりの発行:学生、教職員による年2回の定期的な発行をする	1-3) 図書館だよりの発行:学生、教職員による年2回の定期的な発行をする 図書館だよりは、今年度は教職員による、年1回2月発行と決め、予定通り発行できた。内容としては、学生・教員・法人職員から「私のおすすめ図書」の紹介、大学以外の方の「図書館利用の声」、学生の「図書館ニーズ調査結果」、「図書館の1年間の利用状況」、「図書館からの新データベース導入のお知らせ」に関して掲載を行い、教授会で紹介、図書館に配置、HPへの掲載を行った。今後、学生への配布、学外の方への配布に関して検討中である。	B	会議録資料 図書館だよりの2号	1-3) 図書館だよりの発行:学生、教職員による年2回の定期的な発行をする:評価B 計画では年2回の発刊であったが年1回となった。第2号の図書館だよりをふまえ、さらなるブラッシュアップをする。また、今後、学生が編集企画に参加するかどうかについては検討が必要である。			
図書館運営委員会	2.教育・研究活動への利便性促進	2-1)教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員)	2-1)教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員) 7月に教員に向けて教育研究環境充実のためのニーズ調査を実施し、14名の教員から回答があった。英語文献のデータベースのニーズが高く、CINAHL Completeを予算で導入することとなった。11月には学生全員に向けた図書館利用状況、図書館利用ニーズについての調査を実施し、111名の学生から回答があった。利用状況では、16:00以降の利用が多く、定期試験や実習の準備のための利用が多いことが明らかになった。また、土日開館や利用時間の延長のニーズが非常に高いことが明らかになり、図書館司書や時間外管理要員の必要性について委員会で提案した。	B	議事録 会議録資料	2-1)教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員):評価B 海外文献閲覧ニーズに対して、CINAHLを予算で導入することができたが、CINAHL Complete以外にも、英語文献を検索できるデータベースや、電子教材の必要性が高まっている。今後も教育研究活動の充実を図っていくために、ニーズ調査を行っていく。 学生からの調査では、開館時間の延長、土日開館のニーズが高く、今年度も土曜日の一部で開館を行った。来年度は看護課題研究や国家試験の学習のためニーズがさらに高まると考えられるため、ニーズに対応するための職員増員を委員会として提案していく。	2 教育・研究活動への利便性促進	2-1)教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員) 2-2)図書館の電子利用を促すための環境を整える 2-3)電子資料(電子ジャーナル・文献DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う	
		2-1)教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う(学生、教員)							

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
図書館運営委員会		2-2) 図書館の電子利用を促すための環境を整える	2-2) 図書館の電子利用を促すための環境を整える 4年生の看護課題研究の開講と、図書館HPの一部改修に伴い、無料データベースのリンク先拡充を行った。教員ニーズ調査では、図書館の電子利用として、動画教材のオンライン化のニーズが高く、他、電子書籍の導入希望があった。医中誌やメディカルオンラインは、業者のご厚意により学外からの利用アクセスが可能となり、教員へ周知を行った。	B	議事録 会議録資料	2-2) 図書館の電子利用を促すための環境を整える: 評価B 図書館HPの一部回収によって、利便性の拡大が期待されるため、今後評価を行っていく。講義・演習・実習においてコロナ禍での質保証が求められており、対応を検討するうえで資料の電子利用環境の整備は必須となるため、今後の課題である。現在動画教材は領域予算対応となっているため、今後図書館予算での検討も考慮する必要がある。			
		2-3) 電子資料(電子ジャーナル・文献DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う	2-3) 電子資料(電子ジャーナル・文献DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う 教員ニーズ調査では、Ovid Nursing Community College Extended Journal Collectionの導入希望がCINAHLに引き続き2番目に多いことが明らかになった。次年度予算では導入できなかったため、引き続き導入に向けた検討を行っていく。	B	議事録 会議録資料	2-3) 電子資料(電子ジャーナル・文献DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う: 評価B ニーズ調査結果を基に今年度はCINAHLを導入した。次年度以降もニーズ調査の実施や、英文献の取り寄せ申込件数なども合わせて調査し、電子資料の導入の拡充を図る。			
	3 崇徳厚生事業団及び地域住民への広報	2-4) 領域別資料選定(図書・雑誌・視聴覚資料) 3-1) 崇徳事業団への周知	「図書館だより」の配布を予定している。	B			3 崇徳厚生事業団及び地域住民への広報	3-1) 崇徳事業団への周知	
		3-2) 図書館利用者数を記録し、月別集計を行う	令和3年度の入館者総数は41,313人であった。月平均は3,755人、最も入館者が11月であり6,441人、少ない月は5月であり1,904人であった。	A				3-2) 図書館利用者数を記録し、月別集計を行う	
		3-3) 学外の図書館利用者数を記録し、月別集計を行う	令和3年度の学外の174人であった。月平均は15人、最も学外入館者が多い月は8月であり92人、少ない月は1月であり0人であった。	A	図書館資料			3-3) 学外の図書館利用者数を記録し、月別集計を行う	
	4 図書館企画行事	4-1) 図書館企画行事(図書館ツアー・著書・研究紹介)	コロナ禍のため規格行事は実行できなかった。	—			4 図書館企画行事	4-1) 図書館企画行事 ・図書館企画行事は、図書館利用説明(新入生向け)と、文献検索方法の説明を行う。文献検索の説明については、3年生を対象に1月を予定する。	
	5 図書館資料の充実	5-1) 領域別資料選定(図書・雑誌・視聴覚資料)	10月と1月に教員に資料選定の案内を出し、各領域から選定資料リストを提出してもらった。選定予算額に達することができた。	A	図書館資料		5 図書館資料の充実	5-1) 領域別資料選定(図書・雑誌・視聴覚資料)	
	6 土曜・日曜等の休日開館	6-1) 土曜・日曜等の休日開館	前期試験前(6月～8月)の土曜日8:30～17:00、計10回の土曜日開館を行い、延べ120名の学生の利用があった。後期試験前にも土曜開館を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。 学生ニーズ調査からも、開館時間の延長や土日開館のニーズが高く、委員会から来年度に向けて司書および時間外管理用員の増員の提案を行った。その結果、来年度から平日20時50分まで開館できることになった。	B	会議録資料	6-1) 土曜・日曜等の休日開館: 評価B 土曜日だけであったが、期間限定で開館することができた。学生の土日開館・開館時間延長のニーズが高く、来年度は領域実習に加え国家試験対策、看護課題研究もあるため、さらなるニーズが見込まれる。今後も学習環境を整えていくことが求められる。	6 土曜・日曜等の休日開館	6-1) 土曜・日曜等の休日開館	

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載						
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
図書館運営委員会	7 第2図書室の運営	7-1) 第2図書室の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2図書室にあった図書机キャレデスク10台を業者に依頼し大学図書館に移動した。</li> <li>学生数の増加と国家試験対策にむけ、学修環境を良くするという点から配置を考えセッティングを行った。キャレデスク移動後の第2図書室の有効に活用するために、学生のサークル活動や領域の学習会など利用できること、利用時には図書館にある専用カレンダーに人数と時間の記載することを教授会で教職員に周知した。</li> </ul>	A	会議録			7 第2図書室の運営	7-1) 第2図書室の運営
		7-2) 図書の移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に各領域の教員に大学図書館に移した方が良いと判断して選定してもらった約400冊動の図書を2回に分けて移動した。人文系の古い図書を除き学生の利用頻度の高い図書から移動した。</li> <li>第2図書室は保存書庫としての機能を持たせるため、今後の移動は、大学図書館から版の古い図書、劣化が激しい図書等を第2図書室へ移動することになる。</li> </ul>	A	会議録				7-2) 図書館運営(職員の増員等)
		7-3) 図書館運営(職員の増員等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月に学生の図書館ニーズ調査の結果等から学生の学修環境を整えるために図書館司書の増員、図書館開館時間の延長に伴う管理要員の必要性について理事長に説明書を提出した。事務局からの協力も得て3月1日付けて、臨時職員1名が採用された。3月中は勤務時間(月曜日～金曜日)3月31日まで午後3時30分～19時30分、4月1日より17時00分～21時00分までの4時間勤務となる。</li> </ul>	A	会議録	7-3) 図書館運営: 職員の増員: 評価A 学生のニーズ調査から前期試験期間の土曜日に開館を令和2年よりも回数を多く開館できた。学生の利用者も多かった。その結果、データを用いて、また、完成年度に向けての学生にとっての学修環境を整える図書館の役割について教授会で報告し、事務局の協力も得て理事長にも説明できた。その結果、4月から図書館の開館時間を21時までとすることができた。今後は学生や学外者の図書館利用者を増やし休日の開館を目標にしたい。			

看護学部・看護学科の目標										
令和3年度					令和4年度					
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画		
アドバイザー I期生	1. 学生ファーストの立場をアドバイザーは貫く  2. 学生のストレスへの対応を図ることができる  3. 学生の大学生生活への満足度を高めることができる	1. 国家試験模擬試験の結果を受け、学生の学習力向上のために相談やアドバイスを行う  2. 担当教員が変わった学生が新たな担当教員とのコミュニケーションが図れる  3. アドバイザー教員の指導力を高める勉強会を行う  4. 学力低下等の問題ある学生のフォローを早めに取り組む	1について、領域実習に集中することが、国家試験対策となるため、集中するよう指導し、国家試験についての個別相談があった場合には、応じてきた。  2について、担当グループ内での学生の交流はコロナ禍で担当教員が変わった学生が新たな担当教員とのコミュニケーションが図れるについて、声掛けをするなど意識的に働きかけをおこなったが、コロナ禍で学生相互の交流を図ることはできなかった  3について、コロナ感染状況もあり、実施に至らなかった。  4について、3年次後期は領域実習があり、実習をめぐる様々な問題が学生から相談された。相談の内容によっては、会議録に残さずプライバシーを保護しながら、会議で検討し、解決に向けて努力した。	B  C  評価なし  A	議事録  議事録  議事録  議事録に無い列論もあり	1. 国家試験模擬試験の結果を受け、学生の学習力向上のために相談やアドバイスについては、相談に来た学生には行ったが、基本領域実習に集中させることが、国家試験合格の力となると考え、その視点からアドバイスした  2. 担当教員が変わった学生が新たな担当教員とのコミュニケーションが図れるについて、声掛けをするなど意識的に働きかけをおこなったが、コロナ禍で学生相互の交流を図ることはできなかった  3. アドバイザー教員の指導力を高める勉強会を行うとの計画は、コロナ感染状況もあり、実施に至らなかった  4. 学力低下等の問題ある学生のフォローを早めに取り組むについて、3年次後期は領域実習があり、実習をめぐる様々な問題が学生から相談された。相談の内容によっては、会議録に残さずプライバシーを保護しながら、会議で検討し、解決に向けて努力した。				

看護学部・看護学科の目標												
令和3年度					令和4年度							
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。							
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。							
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。							
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	委員会目標	年間計画	委員会目標	
アドバイザー Ⅱ期生	1 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。	1. 4月5日のオリエンテーションでアドバイザー長から、新型コロナウイルス感染が収束していないため、感染予防対策を徹底して2年次の学習に取り組み、クラスの仲間と交流を深めていくよう方向づけた。またアドバイザー教員との連絡はメールが基本であること、メールには必ず返信し確実に連絡が取れるようにしておくことを話した。	A	アドバイザー会議記録「学生記録票」「面接用パーソナルシート」	1. 新型コロナウイルス感染は収束が見られていないが感染予防対策を徹底して行い1年間対面授業をすることができた。	1 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1-1 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 ①面接は前期・後期各1回を原則として行う。 ②アドバイザー教員と学生の連絡はメールを基本とし、確実に連絡を取り合い学生の状況を把握する。	1 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1-1 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 ①面接は前期・後期各1回を原則として行う。 ②アドバイザー教員と学生の連絡はメールを基本とし、確実に連絡を取り合い学生の状況を把握する。	1 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	
	2 学生を尊重し学生の利益を優先して問題解決を図る。	3 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	2. 1年後期の必修科目「保健医療福祉行政論」を6名の学生が単位未修得となり、担当アドバイザーが新年度早々に3者面談を行った。卒業要件となる科目のため2年後期に履修できるように時間割を組んだ。しかし同時間の公衆衛生看護活動論Ⅱの授業が受けられない。保健師志望の学生はこの科目が履修できなくなるので保健師に必要な科目の単位がとれないことになる。この点を学生・保護者に理解してもらうのに時間を要したが結果として理解が得られた。	A		2. 定例会議の場で学生の授業での様子、学習状況について情報提供がされ、各担当教員との情報交換が行えた。教務・学生課との情報交換、情報の確認により教務委員会・学生委員会との連携が図れた。	2 学生を尊重し学生の利益を優先して問題解決を図る。	1-2 科目担当者、教務委員会、学生委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。 ①単位の修得状況、未修得単位の有無を確認し必要な指導を行う。 ②授業態度に問題のある学生は状況を確認し面接・指導を行う。 ③領域別実習に向け配慮した指導が必要な学生については、事前に実習担当者に情報を伝え、実習がスムーズに行えるようにする。	2 学生を尊重し学生の利益を優先して問題解決を図る。	2-1 学生生活に課題のある学生に対しタイムリーで適切な対応を行う。 ①健康上の問題や生活態度に問題がある学生に対しては、日常的に情報収集を行う。 ②アドバイザー会議での情報交換や他の教職員からの情報提供をもとに状況を確認した上で面接・指導を行う。	2 学生を尊重し学生の利益を優先して問題解決を図る。	
	3 学生の大学生活への満足度を高めることができる。	4 アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。	3. 遅刻、授業中の離席等、受講態度の良くない学生や欠席、体調不良で生活が整わない学生に対してアドバイザーから面接や指導を行った結果、全体的に改善の傾向がみられ学習態度が安定してきた。			3. 定例会議で学生生活に課題のある学生について検討することができ、タイムリーで適切な対応ができた。オリエンテーションで連絡は基本的に大学メールで行うので必ず返信し、確実に連絡を取る。	3 学生の大学生活への満足度を高めることができる。	4 アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。	3 学生の大学生活への満足度を高めることができる。	3-1 アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。 ①アドバイザー会議での情報交換を積極的に行う。 ②学生とのかかわり方等の研修会に参加する。 3-2 学生と関わる時は学生の言い分をよく聞き、決めつけないよう配慮する。 3-3 学業に限らず幅広く相談にのれるようコミュニケーションをとり大学生活に満足が得られるようにする。	3 学生の大学生活への満足度を高めることができる。	
			4. 定例会議の情報交換で各担当学生の生活全般について把握し、学生を支援するためのアドバイザーの役割について共通認識がもてるよう、活発に意見交換を行い相互の研鑽を図った。			4. 定例会議において常にアドバイザーの役割、委員会の目標を念頭に置き、課題のある学生について検討したことが指導力向上のための研鑽につながった。今後もアドバイザーとしての役割を果たすためさらに研鑽を重ねていく。						
			○新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応が出た学生が数名いたが、症状が収まり、自己対処できる程度であった。									
			○基礎看護学実習Ⅱは新型コロナウイルス感染が収束しないため、昨年同様学内実習となる。できるだけ臨床に近づけた実習となるよう臨床の事例を頂き、臨床指導者とのカンファレンスの工夫を行ったことで、学生は真剣に取り組み学習成果が挙げられた。									
			○今年で3学年が揃い後輩ができたことで学生全体の交流を図ることへの積極的な活動が見られた。(校友会、サークル活動等)									
			○継灯式の準備、練習をおこなうことでクラス全体のまとまりが出てきた。									

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
アドバイザー Ⅲ期生	学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。  2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。  3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。  4. アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。	1. 前期は5～6月、後期は10～11月にかけて「面接用パーソナルシート」を用いて個別面接を行った。  2. 各科目担当者や各委員会と情報共有を行い、対応した。 1) 前期は必修科目の看護学概論とキャリアデザインⅠが取れなかった学生がおり、次年度再履修することとなった。看護学概論は次年度1単位から2単位へ変更するため、そのことを学生と保護者に担当のアドバイザーが伝えた。 2) 新型コロナウイルス感染所に罹患した学生が1名おり、1週間近く学年閉鎖となった。濃厚接触者を特定して連絡するとともに、それ以外の学生に対しても各自体調管理を行い、外出を控えるよう伝えた。家族からの感染者1名以外の感染者は出なかった。 3) 国家試験模試の結果が悪い学生について情報共有した。  3. 授業態度の悪い学生、レポート等の遅れが目立つ学生、基礎看護学演習の技術演習に参加できない学生について情報共有し、適宜面接等を実施した。  4. 定例会議の情報交換で各担当学生の生活全般について把握し、学生を支援するためのアドバイザーの役割について共通認識がもてるよう、意見交換を行った。	A  A  A  B	会議録 「学生記録票」 「面接用パーソナルシート」          会議録	1. 5月連休明けと、基礎看護学実習Ⅰの終了後に個別面接を実施することができ、学生の学習や生活についてタイムリーに状況を把握し相談にのることができた。  2. 3. 各科目担当者や教務委員会・学生委員会・国家試験対策委員会との連携を図ることができた。また、学生生活に課題のある学生について、各科目担当者や定例会議の中で情報共有することにより、タイムリーな対応ができた。    4. 定例会議の中で気になる学生への対応等を検討する機会があったが、今後さらにアドバイザー教員の指導力向上のための研鑽が必要である。	学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。  2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。  3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。  4. アドバイザー教員の指導力向上のため相互に共通理解を深める。	
アドバイザー Ⅳ期生							1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。  2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。  3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	



看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
子育て支援事業	1 長岡崇徳大学における子育て支援事業の企画・運営を行い地域社会に貢献する。	1) パパママサークルの実施 4月17日(土)、5月8日(土)、6月12日(土)、7月10日(土)、8月14日(土)、下半期は新型コロナウイルス感染症の状況および業務を勘案して日程を決定する。  2) 講演会の実施とZoomカフェ 日時: 7月末～8月上旬 テーマ: 父親の産前・産後うつの実態とその支援(父親の子育ての意義も含めて) 講師: 竹原健二((国立成育医療センター研究所 政策科学研究政策開発研究室 室長) 開催方法: オンライン 対象: 子育て支援に興味関心のある方 受講料: 検討中  3) 学生サポーター養成講座(4～5コマ1コース) 対象: 本学の主として1年、2年 日時: 定期試験などを勘案して決定 内容: 遊びなどの体験型授業	1) パパママサークル (1) 実施回数および参加者 毎月1回 土曜日 10時～12時 1月と2月は希望者が多く、午後も開催した。計14回実施した。参加者77組 (2) 教職員延人数 52名 専門職世話人延人数 5名 (3) 学生サポーター延人数と内訳 31名(2年生20名、3年生11名) 男子学生延べ人数6名(全員3年生)だった。 (4) アンケート結果 回答率100% ・ほとんどが長岡市からの紹介だった ・参加満足度は99%(パパママ合計)と非常に高く、参加することによってパパママが共に子育てすることへの意識がさらに強くなったと答えていた。特に沐浴や育児技術に関する受講ニーズが高く、DVD(事業で作成)の視聴後の個別指導に対する満足度が大変高いことがわかった。 (5) 次年度に向けて ・現在、パパママサークルについては報告書を作成している最中である。  2) 講演会の実施とZoomカフェ 日時: 7月24日13:00～14:30 テーマ: 父親の産前・産後うつの実態とその支援(父親の子育ての意義も含めて) 講師: 竹原健二((国立成育医療センター研究所 政策科学研究政策開発研究室 室長) 開催方法: オンライン 対象: 子育て支援に興味関心のある方なら誰でも 受講料: 無料 参加者: 申し込み45名(教員14名、学生4名、医師3名、病院・子育て関係者24名) アンケート結果: 回収31名 ・基調講演の満足度(5段階評価) ④ 5名(16.1%) ⑤ 26名(83.0%) ・記述意見19件「父親の育児やうつについて考えることができ、支援について考えられる貴重な講演だった。」という意見がほとんどだった。  3) 学生サポーター養成講座(4～5コマ1コース) 対象: 本学の主として1年、2年 日時: 3月26日(土)14時～16時(オンライン) 内容: 講座1: 子どもの発達に合わせた遊び、講座2: 親性と子どもとの関係、講座3: 子どもの特徴と安全性を考えた子どもの世話、遊び、愛着などの講義、講座4: 赤ちゃんはなぜ泣くの?」 参加者: 10名(1年生5名、2年生1名、3年生2名、教員2名) 参加者アンケートの結果: 4講座ともに理解できた人が90%以上だった。絵本の読み聞かせの実際や質問に答えてもらうなど、オンラインの特徴を活かして、小人数だったこともあり、双方向性を意識してできた。自由記述では興味・関心を喚起することができたことがわかった。 評価: 2月に計画したが、新型コロナウイルス感染症のため、学年閉鎖となり3月末ようやく開催することができた。しかし、春休みということもあり少人数の参加だった。今回技術演習は行わず、パパママサークル等の実践場面で学べるように工夫していきたい。	A	長岡崇徳大学フォルダ パパママサークル アンケート結果など	・マンパワーが少ない中、3つの事業(講演会、毎月1回のパパママサークル、学生サポーター養成講座)に取り組んだ。成果は十分だった。課題としては、参加者の満足度は大変高いが、参加者数を増やす努力は必要だと考えられる。 ・令和4年度は長岡市がパパママサークルの回数を増やすことから、本学でのパパママサークルの開催は少なくなることが予測される。大学における子育て支援の在り方を模索していきたい。	1 長岡崇徳大学における子育て支援事業の企画・運営を行い地域社会に貢献する。	1) パパママサークルの実施	
								2) 講演会の実施 日時: 7月末～8月上旬 テーマ: 父親の産前・産後うつの実態とその支援(父親の子育ての意義も含めて) 講師: 竹原健二((国立成育医療センター研究所 政策科学研究政策開発研究室 室長) 開催方法: 是非、対面で実施したい 対象: 子育て支援に興味関心のある方 受講料: 検討中 ※昨年実施のアンケートの評判が良かったため、Part2として実施予定	
								3) 学生サポーター養成講座(4～5コマ1コース) 対象: 本学の主として1年、2年 日時: 定期試験などを勘案して決定 内容: 遊びなどの体験型授業	

看護学部・看護学科の目標								
令和3年度					令和4年度			
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。			
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。			
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。			
年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
子育て支援事業	2 行政や地域子育て団体との連携をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パパママサークルを通しての長岡市教育委員会子ども・子育て課と連携する。</li> <li>・子育て支援施設等との連携</li> <li>・まちキャン長岡、米百俵プレイス事業などとの連携</li> </ul>	1) パパママサークルを通しての長岡市教育委員会子ども・子育て課と連携する。 ・令和2年度から開始した子育て支援事業を通して長岡市子ども・子育て課とは有機的に連携し、令和3年度は母性看護学実習において母子地域包括支援の視点で子育て施設や産後ケア施設などで有意義な実習が展開されている。 ・令和2年度の報告書が完成し、行政にも配布した。 2) まちキャン長岡、米百俵プレイス事業などとの連携 ・JR長岡駅前に「米百俵」ゆかりの国漢学校がかつてあった場所にできる複合ビルが「米百俵プレイス」であり、マンションや銀行などの他、長岡市の「ミライエ長岡」が誕生する。2023年度から順次オープン予定で2022年度から「子どもラボ」を先行ではじめる意向があるとのことで、長岡市からのヒアリングに高島、佐藤、内山が対応した。未来を担う子どもたちが生き生きと活動できる場について意見交換した。	A	長岡崇徳大学フォルダ 議事録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から開始した子育て支援事業を通して長岡市子ども・子育て課とは有機的に連携し、令和3年度は母性看護学実習において母子地域包括支援の視点で子育て施設や産後ケア施設などで有意義な実習が展開されている。令和3年度も連携を進めていく必要がある。</li> <li>・長岡市の「米百俵プレイス」「ミライエ長岡」の子どもラボへの本学への期待を感じられる。未来を担う子どもたちが生き生きと活動できる場を一緒に考え、できるだけ協力していきたい。</li> </ul>	2 行政や地域子育て団体との連携をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パパママサークルを通しての長岡市教育委員会子ども・子育て課と連携する。</li> <li>・子育て支援施設等との連携</li> <li>・まちキャン長岡、米百俵プレイス事業などとの連携</li> </ul>
	3 学生の子育て支援に関する興味・関心を深め、活動できる基礎的知識を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生サポーター養成講座受講生を中心として、さまざまな子育て支援事業への参加を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パパママサークルのサポーターとして参加し活躍している。1-1参照</li> <li>・パパママサークルに世話人として参加してくれた助産師の産後ケアハウスでのアルバイトにつなげる。</li> <li>・たまひよサークルはこれらの活動を基盤として立ち上がったサークルである。</li> </ul>	B	長岡崇徳大学フォルダ 子育て支援事業 アンケート結果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B評価にした理由は、サポーターの確保や養成講座の参加者が減ってきていることである。また、たまひよサークルも活動がなされていない。パパママサークルも今後回数が減っていくことから、活動の場の確保も課題となってくる。</li> </ul>	3 学生の子育て支援に関する興味・関心を深め、活動できる基礎的知識を育てる。	3. 学生の子育て支援に関する興味・関心を深め、活動できる基礎的知識を育てる。 ・学生サポーター養成講座受講生を中心として、さまざまな子育て支援事業への参加を促進する。 ・学生サポーターが活躍できる場の開拓



看護学部・看護学科の目標						
令和3年度				令和4年度		
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。		
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。		
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。		
年度当初記載			年度末記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題
教育DX推進会議						<p>1. 文科省補正予算で購入するVR機器・教材に関する教職員の理解を深め、学内活用を促進させる。</p> <p>1. 文科省補正予算で購入するVR機器・教材に関する教職員の理解を深め、学内活用を促進させる。</p> <p>2. 学内の教育DXの推進に向けて、課題等を整理し提起する。</p> <p>2. 学内の教育DXの推進に向けて、課題等を整理し提起する。</p>
認知症認定看護師養成機関設立準備委員会						<p>1. 専門性の高い看護師の養成に向け、認知症認定看護師養成機関設立の準備をする。</p> <p>1. 定期的な準備委員会を開催する(1か月に1回)</p> <p>2. 認知症認定看護師養成機関設立に向け、情報収集及びその要件を整備していく。</p> <p>3. 要件の整備ができ次第、開設に向け書類作成にとりかかる。</p>

看護学部・看護学科の目標									
令和3年度					令和4年度				
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。					1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。				
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。					2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。				
3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。					3. 研究活動及び地域連携・貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。				
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
自己点検・評価委員会	1. 認証評価における内部質保証を見据え、PDCAサイクルを適切に機能させる  2. 年報の作成	1. 年度末に各委員会から当該年度の活動報告書の提出を受け、自己点検・評価委員会で、必要な内容が網羅されているか点検し、必要に応じて検討・修正を求め、そのうえでPDCAサイクルシート(学内版)を作成する  2. 認証評価を踏まえて、年度ごとの活動実績をまとめた年報の作成を行う。各種委員会活動と教員個人の教育研究活動成果の提出を受け作成し、7月中に完成する。	1. 各委員会より提出された年間実績をPDCAサイクルシートに落とし込んだ資料を作成し、第1回委員会での議事とした。また、修正後の完成版については第2回委員会で議事とし、6月の教授会で報告した。  2. 9月の教授会において、年報完成の報告を行い、大学ホームページにて公表した。	B    A	第1回自己点検・評価委員会議事要旨    大学ホームページ/情報公開/3.教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること/(3)教育・研究年報	1. 第1回委員会開催が4月末となり、自己点検・評価委員会の開催時期についてはもっと早期に開催すべきとの評価でBとした。  2. 本来であれば令和元年度が終了した段階での年報作成を行う予定であったが、長中期計画の策定など、自己点検・評価委員会での意思統一に時間を要したことや、新型コロナウイルス(COVID-19)による諸対応の関係で、単年度の活動結果報告ができなかった。そこで2年度分をまとめて報告する形となったが、発表ができたため評価Aとした。	1. 認証評価における内部質保証を見据え、PDCAサイクルを適切に機能させる  2. 年報の作成  3. 認証評価に向けた中間評価の実施	1. 継続して、PDCAサイクルシートを運用しつつ、従来の自己点検評価に加え、業務運営・財務面を含めた自己点検評価を行う  2. 認証評価を踏まえて、昨年度の活動実績をまとめた年報を作成し公表する。  3. 今年度は完成年度となることから、中間評価を実施する。また、認証評価機関についての選択について、各機関の情報を収集する。	